

# Corporate Report 2022

コーポレートレポート2022



SDGs × WAKACHIKU

若築建設株式会社

# CONTENTS

## 表紙について

若築建設ロゴマークの縦ラインをSDGsの17色でカラーリングし、サステナビリティな若築建設をイメージしました。



## 報告書について

**対象組織** 若築建設株式会社

**対象範囲** 若築建設株式会社の事業活動

**対象年度** 2021年度(2021年4月1日~2022年3月31日)  
ただし、一部2022年9月までの情報も含みます。

**発行** 2022年9月

**参考資料** ・「日建連 環境情報ガイドライン」(2021年5月)  
・「環境報告ガイドライン(2018年度版)」環境省

## 作成部署およびお問い合わせ先

この報告書に関するご意見・お問い合わせは、下記で承っております。

### 経営企画部

TEL.03-3492-0308

FAX.03-3492-1785

<https://www.wakachiku.co.jp/contact/>



## 2 | 社長あいさつ

## 3 | 若築建設について

3 沿革

5 会社概要

7 財務・非財務ハイライト

## 9 | 社外取締役と若手社員の座談会

## 13 | 事業戦略

13 完成工事紹介

15 生産性の向上

19 人的資源の充実

21 男性の育児休業

23 技術開発関連

25 産学連携の取り組み

## 27 | E(環境活動)

27 気候変動への対応

29 環境データ

## 31 | S(社会活動)

31 社会貢献活動

33 運天港における軽石撤去による航路啓開

35 社会活動TOPICS

## 36 | G(ガバナンス)

36 社外取締役から見た若築建設

37 コーポレート・ガバナンス

40 安全マネジメントシステム

43 防災

44 品質・環境マネジメントシステム



# 若築建設株式会社

ごあいさつ

代表取締役社長

烏田 克彦

## すべてのステークホルダーの期待に 応えられる企業を目指す

1890年、海上交通の要衝である洞海湾（若松港）および周辺の運河を改良し、筑豊炭田から採掘された石炭の積出港として開発・運営することを目的として、当社は創業いたしました。創業にあたっては、筑豊地方の有力者が発起人として集まり、渋沢栄一翁をはじめとする、東京・大阪の著名な事業家の方々に株主として支援していただきました。このような民間の資本を利用して公共事業を行う手法は、現在のPFI事業の先駆けともいえるものでした。

創業以来、「内外一致 同心協力」を企業理念とし、「品質と安全」を核とした施工により、海上土木を中心に陸上土木、建築、海外へと事業を拡大してまいりました。

現在の建設業界には、担い手確保のための働き方改革、健康経営の推進、DXによる生産性向上への取り組み、脱炭素に向けた事業変革など、多くの課題があります。

このような事業環境のもと、当社は創業140周年に向け「サステナビリティの追求」を基本方針とした長期ビジョンを策定し、その第1期となる「中期経営計画（2021年度－2023年度）」では「事業基盤の強化」と「ESG経営の推進」を基本戦略とし、全社一丸となって企業価値の向上に取り組んでおります。

本計画の概要は以下のとおりであります。

### 【中期経営計画（2021年度－2023年度）】

#### ○基本方針

「サステナビリティの追求 ～創業140周年に向けて～」

#### ○基本戦略

すべてのステークホルダーの期待に応えられる企業へ

#### 1.事業基盤の強化

- 顧客ニーズに応えられる企画・提案力の強化
- 生産性の向上
- 人的資源の充実
- 財務体質の強化

#### 2.ESG経営の推進

##### E（環境）

- 再生可能エネルギー分野への注力
- 建設工事でのCO<sub>2</sub>削減
- ブルーカーボンなど、海洋環境改善への取り組み

##### S（社会）

- 安全かつ良質なインフラの提供
- アフターコロナにおける働きがいのある職場環境
- 建設業を担う人材の育成
- 協会社との共生
- 地域社会への貢献

##### G（ガバナンス）

- 新様式をふまえたリスクマネジメント
- ガバナンスの強化
- コンプライアンスの徹底
- IRの強化

本報告書は、「中期経営計画（2021年度－2023年度）」の基本戦略の項目ごとに内容を取りまとめており、また、SDGs17項目にも関連付けております。ステークホルダーの皆様におかれましては、中期経営計画の進捗状況を含め、建設業界の課題解決に向けた当社の取り組みをご一読いただき、忌憚のないご意見を賜れば幸いです。

2022年9月

# 沿革

石炭の積出港として開発・運営することを目的として創立し、  
海洋土木、陸上土木や建築、海外事業を展開し続けて、2020年5月に創業130周年を迎えました。

## 1890年～

### 会社創立

#### 創業～地域の発展をめざして～

明治時代初期の北九州地区は、石炭埋蔵量の豊富な筑豊炭田を擁するものの、石炭などの物資の輸送問題が地域社会発展の障害となっていました。

当社は、1890年、海上交通の要衝である洞海湾（若松港）および周辺の運河を改良し、筑豊炭田から採掘された石炭の積出港として開発・運営することを目的として創立されました。

工事費用は港や運河を利用する船舶から使用料を徴収して賄うという条件で、福岡県知事の認可を受け、改良工事に着手しました。徐々に港の整備が進み、1901年、八幡村（現・北九州市八幡東区）に官営八幡製鉄所が開設されたことを契機に、洞海湾を中心とする地域は、北九州工業地帯として発展していきました。

このような民間の資本を利用して公共事業を行う手法は、現在のPFI事業の先駆けともいえるものでした。



1890年 福岡県庁から若松港築港の許可を受けた際の指令命令書

1890

若松築港会社創立

1906

若松港第一次・第二次拡張工事竣工

1917

若松港第三次拡張工事竣工

1899

バケット式浚渫船「第三洞海丸」英国に発注



1899年 バケット式浚渫船「第三洞海丸」英国に発注

## 1938年～

### 港湾工事進出

会社創立の目的である洞海湾開発は達成され、港銭徴収の廃止にともない、若松港の開発事業で培った技術を活かして、多くの官庁および民間企業の港湾工事請負業をスタートしました。

終戦をむかえると日本経済は厳しい不況に見舞われますが、新たな事業展開の第一歩として東京進出を行い、東京湾周辺の大規模工事への参入を果たしていきます。

その後、高度経済成長の基盤となる重化学工業の発展により、全国各地で多くの臨海工業地帯が必要とされ、当社も多くの事業に参画して業容を急拡大、全国展開していきます。



1956年 東京都砂町工事着工（自社埋立）

1961

東京証券取引所第二部に上場

1962

東京証券取引所第一部に上場

1956

東京都砂町で自社埋立工事を着工（東京進出）

1938

港銭徴収の廃止に伴い、港湾工事方面に進出



1959年 有明人工島築島工事着手

## 2001年~ 次の時代に向けて

入札契約制度の見直しにより、建設業界は新たな局面を迎えました。また、建設請負業のみならず、PFIやPPPの手法が活用されるようになりました。

近年では誰一人取り残さない社会の在り方“SDGs”についても注目が集まっています。建設業は、防災や減災、技術の発展・継承、再生可能エネルギーなど、SDGsの17のゴールと深く関わりがあり、建設業の果たす社会的役割は、日々重要度を増しています。また、週休2日や女性活躍推進、働きやすい職場環境の整備など、建設業を取り巻く環境も大きく変わってきました。

当社はこの時代の変化を捉え、企業理念・経営理念のもと、社会の発展や人々の安全な暮らしの実現に貢献・尽力していきます。

## 1965年~ 社名変更と総合建設業へ展開

1965年に「若松築港株式会社」から、新分野への進出を図る決意を込めて商号を現在の「若築建設株式会社」へ変更した当社は、宅地造成工事や橋梁、道路工事をはじめとする陸上土木工事へ加え、建築部門へ本格的に参入していきます。若松港の開発からはじまった当社は、海から陸へ、そして総合建設業者へと発展していきました。

1997年には、本店の建て替えに伴い、社会貢献活動の一環として、わかちく史料館を開設しました。若松の開発の歴史について詳しく展示している当館は、地域の方々や市内外の方々の学びの場となっています。



1976年 スエズ浚渫工事着工

**1965**

若築建設株式会社に  
商号を変更

**1976**

スエズ浚渫工事着工

**1982**

建築部門へ  
本格的に進出

**1971**

陸上土木部門へ  
本格的に進出



1982年 山陽自動車道広島ジャンクション工事着工



1992年 港北ニュータウンB住宅建築工事着工

**1997**

若松本店完成、  
わかちく史料館開設、  
ISO9001認証取得

**1996**

品質保証方針制定



2005年 PFI石巻消防本部庁舎着工



2014年 ハイブリッド式グラブ浚渫船「若鷲丸」完成



2015年 由利本荘海岸風力発電所工事着工

**2014**

日本初のハイブリッド式グラブ  
浚渫船「若鷲丸」の建造

**2017**

わかちく奨学金  
の発足

**2005**

PFI事業 石巻地区広域行政事務組合消防本部  
(石巻消防署併設)庁舎整備事業への参画

**2020**

創業130周年

**2021**

新中期経営計画  
(2021年度~2023年度)



2005年 羽田空港D滑走路建設外工事着工



2014年 1993年より続くいなげの浜清掃活動が、  
2014年春の褒章で緑綬褒状を受章



2015年 スリランカ国国道主要橋梁建設工事  
パッケージ1着工

# 会社概要

## 会社概要

商号	<b>若築建設株式会社</b> (WAKACHIKU CONSTRUCTION CO.,LTD)
創立	1890年(明治23年)5月23日
代表者	代表取締役社長 <b>烏田 克彦</b>
資本金	113億7千4百万円
株式上場	東京証券取引所プライム市場
従業員数	751名(2022年3月31日現在)
事業内容	国内・国外建設工事、海洋開発、地域・都市開発、環境整備・保全およびその他建設に関する事業、建設コンサルティング、マネジメント事業、不動産事業
特定建設業許可番号	国土交通大臣許可(特-1)第3650号
宅地建物取引業免許番号	国土交通大臣(15)第456号



東京本社

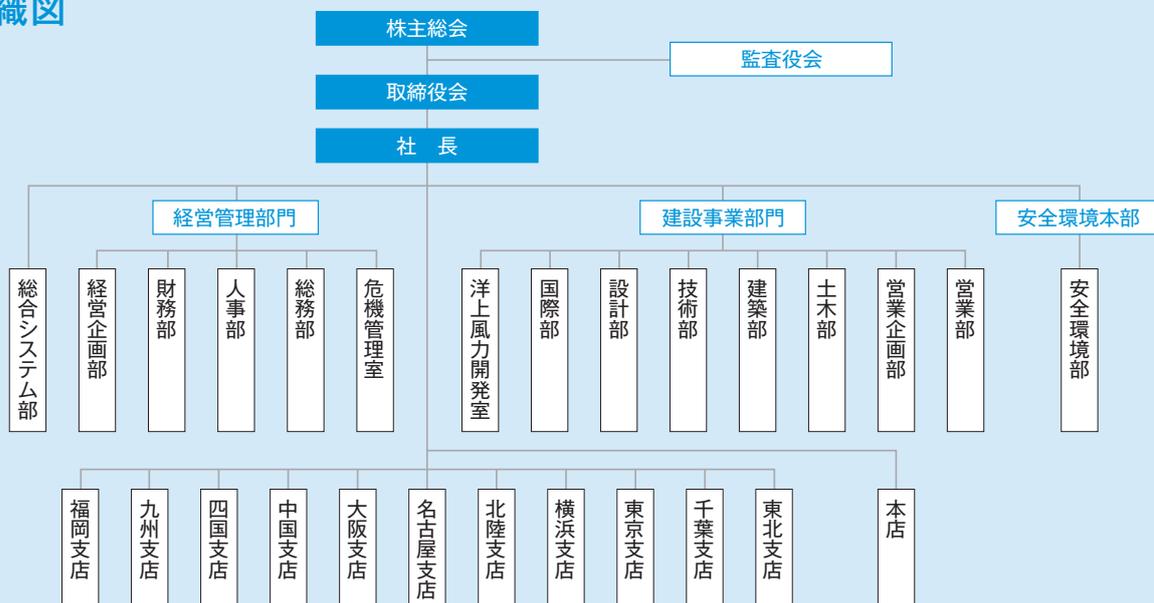


わかちく史料館

## 事業所一覧

本店	〒808-0024 北九州市若松区浜町一丁目4番7号 TEL (093)761-1331
東京本社	〒153-0064 東京都目黒区下目黒二丁目23番18号 TEL (03)3492-0271
東北支店	〒980-0014 仙台市青葉区本町二丁目10番28号 TEL (022)221-4325
千葉支店	〒260-0027 千葉市中央区新田町4番22号 TEL (043)242-2245
東京支店	〒153-0064 東京都目黒区下目黒二丁目23番18号 TEL (03)3492-0811
横浜支店	〒231-0015 横浜市中区尾上町一丁目6番 TEL (045)662-0814
北陸支店	〒950-0087 新潟市中央区東大通一丁目2番23号 TEL (025)241-1242
名古屋支店	〒460-0003 名古屋市中区錦一丁目11番20号 TEL (052)201-5321
大阪支店	〒541-0056 大阪市中央区久太郎町二丁目2番8号 TEL (06)6261-6736
中国支店	〒730-0031 広島市中区紙屋町一丁目3番2号 TEL (082)248-1810
四国支店	〒760-0071 高松市藤塚町一丁目2番1号 TEL (087)833-7347
九州支店	〒808-0024 北九州市若松区浜町一丁目4番7号 TEL (093)752-3510
福岡支店	〒812-0013 福岡市博多区博多駅東一丁目13番9号 TEL (092)483-5307
海外事業所	ジャカルタ事務所(インドネシア共和国) コロンボ事務所(スリランカ民主社会主義共和国) ハノイ事務所(ベトナム社会主義共和国) マレー事務所(モルディブ共和国)
わかちく史料館	〒808-0024 北九州市若松区浜町一丁目4番7号 当社本店3階 TEL (093)752-1707 開館時間 午前10時～午後4時 休館日 毎週月曜日・祝祭日・年末年始 入館料 無料

## 組織図



## 企業理念

## 内外一致、同心協力

初代社長石野寛平は、後に若松港の築造事業と運営の道のりを「若松築港沿革記」という手記にまとめ、その中で「内外一致 同心協力せし人々の働きが事業を成功に導いた」と述べています。

「内外一致」つまり官と民、地域と地域、それぞれの人々が同じ目的に向かって、「同心協力」心を一にして力を出し合う。これこそがまさに建設産業の基本であると当社は考えています。

## 経営理念

「品質と安全」を核とした施工により、お客様の信頼を高め、社会に貢献する。

## 2022年度社長方針

安全と品質を核とし、時代の変化に柔軟に対応することで、すべてのステークホルダーの期待に応えられる企業を目指す。

## 社長方針各施策

- 顧客のニーズに応えられるよう企画提案力を強化し、営業分野の拡充、収益基盤の多様化を図る
- 工事においては「品質と安全の徹底」を核とした確実な施工により、顧客の信頼をより一層高めるとともに、さらなる採算性の向上を図る
- 効果あるリスクアセスメントを実践し、労働災害の撲滅を図る
- 業務効率の改善、生産性の向上、人材確保、育成の強化を図ることで「働き方改革」を実現する
- 社員の健康と安全を重視する「健康経営」を推進することで、働きがいのある職場環境を実現する
- ガバナンス体制の強化、コンプライアンス意識の浸透により、企業倫理の向上を図る
- CO<sub>2</sub>削減をはじめとする環境改善への取組みや防災活動など地域社会との交流を推進し、社会貢献に努める
- 感染症拡大防止に努め、新しい働き方にチャレンジすることで、社会の安全・安心に寄与する

## 役員一覧

## 取締役および監査役

鳥田 克彦	代表取締役社長
石井 一己	代表取締役
恵下 弘幸	取締役
中村 誠	取締役
牧原 久利	取締役
平田 靖祐	取締役
朝倉 康夫	取締役*
原田 美穂	取締役*
森田 隼人	取締役*
佃 敏郎	常勤監査役
前田 克典	常勤監査役*
澤井 謙一	監査役*

※は社外取締役および社外監査役

## 執行役員

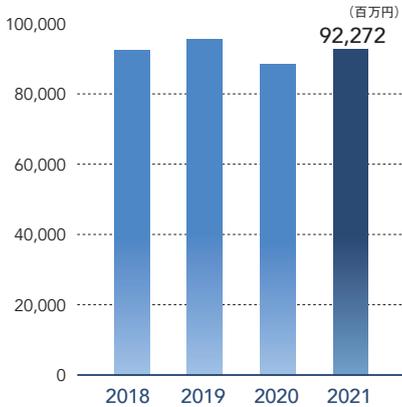
鳥田 克彦 <sup>※</sup>	執行役員社長 安全環境本部長
石井 一己 <sup>※</sup>	専務執行役員 建設事業部門長兼安全環境本部副本部長
梶原 康之	専務執行役員 建設事業部門技術担当
恵下 弘幸 <sup>※</sup>	専務執行役員 建設事業部門担当(営業統括兼国際統括)兼 洋上風力開発室担当兼総合システム部担当
松本 敏	専務執行役員 本店長兼九州支店長
中村 誠 <sup>※</sup>	常務執行役員 経営管理部門長
寺本 忠彦	常務執行役員 建設事業部門営業担当
野木 秀高	常務執行役員 東京支店長
牧原 久利 <sup>※</sup>	常務執行役員 建設事業部門担当兼土木部長
平田 靖祐 <sup>※</sup>	常務執行役員 経営管理部門財務部担当兼財務部長
宮坂 豊光	常務執行役員 大阪支店長
花田 和孝	常務執行役員 建設事業部門担当兼営業企画部長

三輪 哲也	執行役員 建設事業部門担当
井口 謙史朗	執行役員 建設事業部門担当兼技術部長
西田 洋一	執行役員 建設事業部門担当兼建築部長兼品質監理室長
久保田 雅裕	執行役員 安全環境本部安全環境部担当兼安全環境部長
山本 一	執行役員 建設事業部門担当
荒瀬 憲比古	執行役員 経営管理部門危機管理室担当兼危機管理室長
中山 久之	執行役員 建設事業部門担当兼設計部長
刀根 幸晴	執行役員 名古屋支店長
山本 英世	執行役員 東北支店長
辻 拓也	執行役員 九州支店副支店長
長廻 幹彦	執行役員 経営管理部門経営企画部担当兼経営企画部長
中野 裕之	執行役員 経営管理部門総務部担当兼総務部長兼 人事部担当兼人事部長

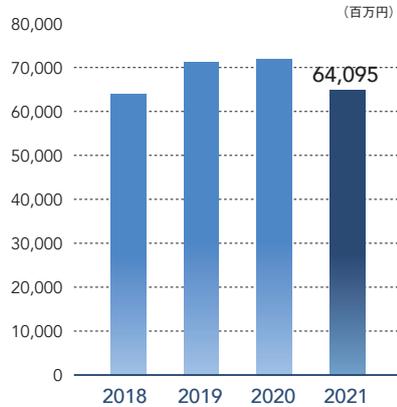
※は取締役兼務者

# 財務・非財務ハイライト

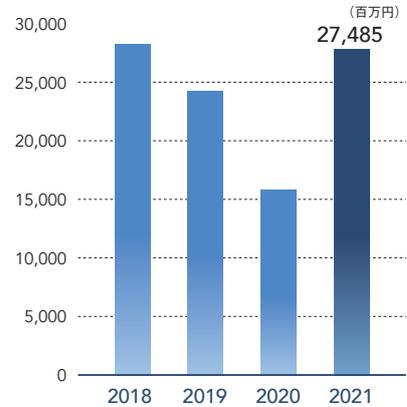
受注高



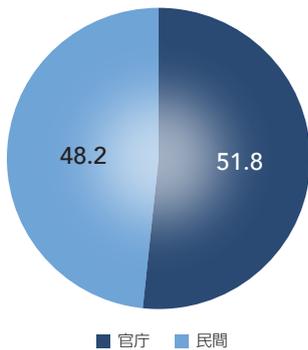
受注高(土木)



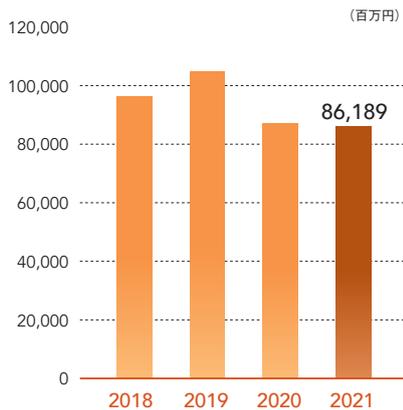
受注高(建築)



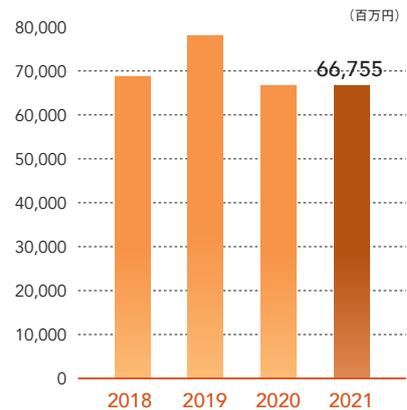
官民受注比率



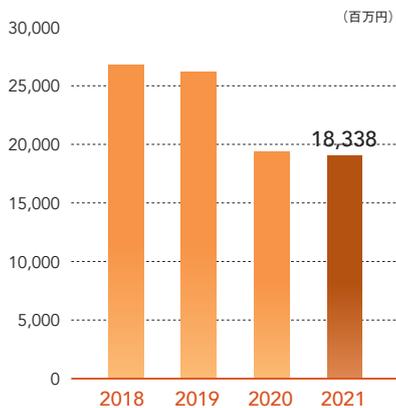
売上高



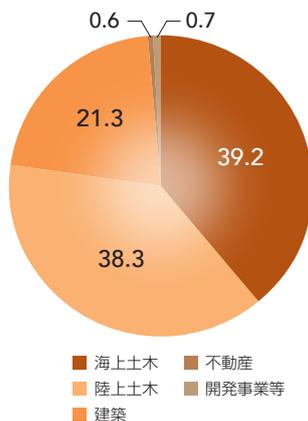
売上高(土木)



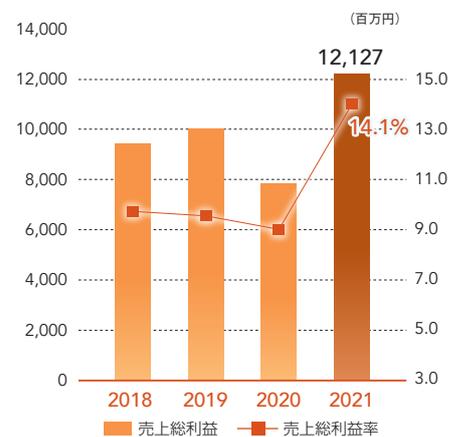
売上高(建築)



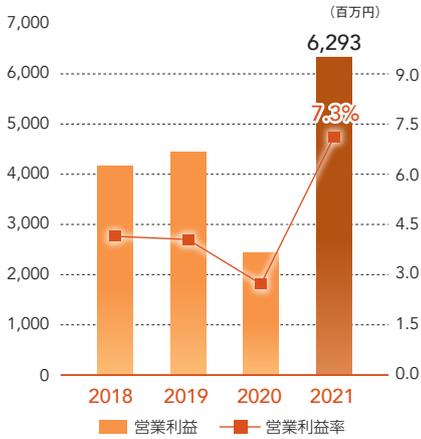
売上構成比率



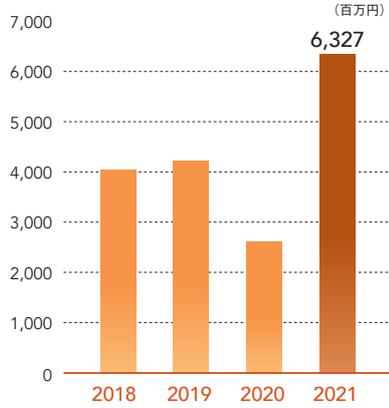
売上総利益



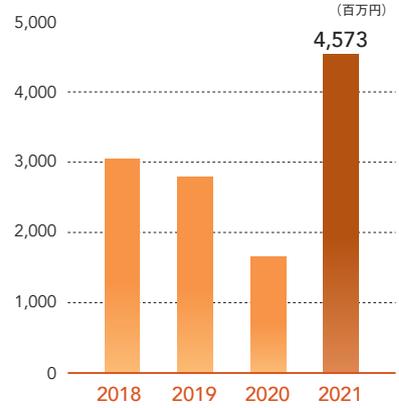
営業利益



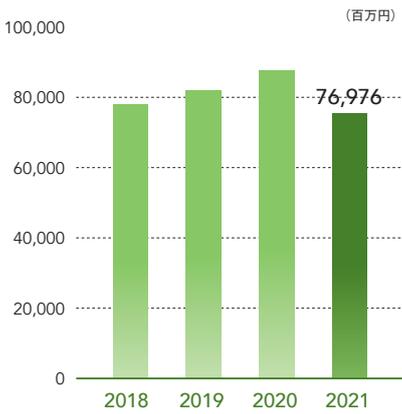
経常利益



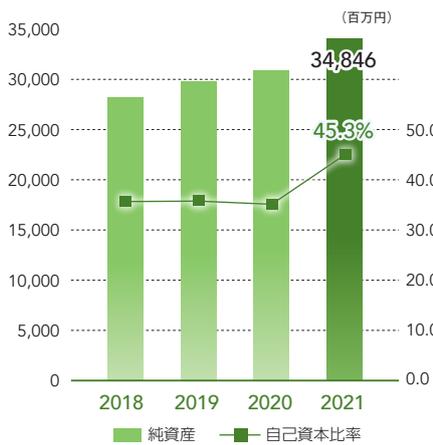
当期純利益



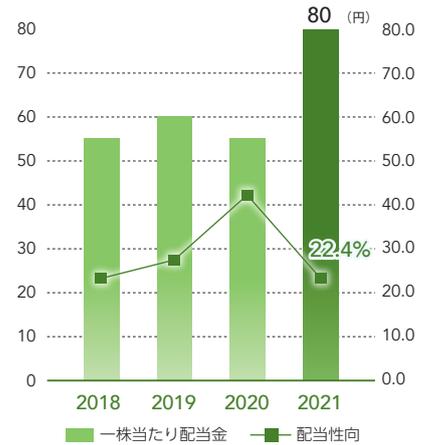
総資産



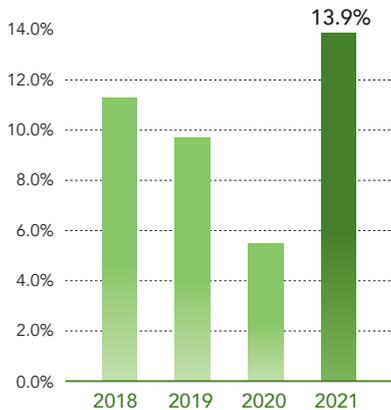
純資産・自己資本比率



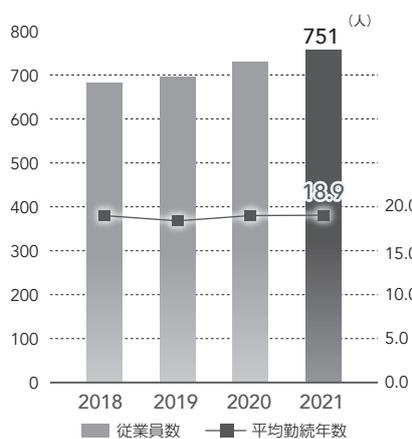
一株当たり配当金・配当性向



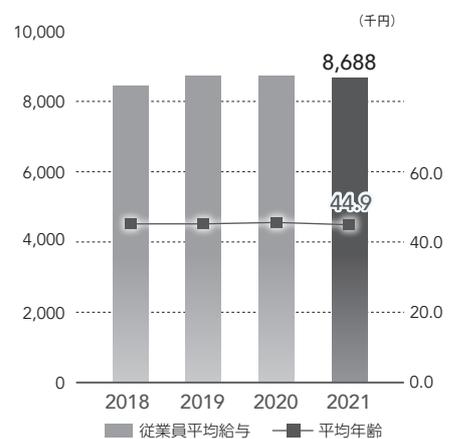
ROE (自己資本利益率)



従業員数・平均勤続年数



従業員平均給与・平均年齢





## 社外取締役と若手社員の座談会

2020年の株主総会より社外取締役に就任されている原田美穂氏と2018年入社の総合職の同期4名で座談会を行い、当社の職場環境について忌憚のない意見を語っていただきました。

皆さん、それぞれ自己紹介をお願いします。

**原田**●2020年の株主総会から社外取締役に仰せつかっています。司法書士をしまして、事務所が九州支店のすぐ近くにありまして、会社の歴史についてもよく存じています。裁判所の調停委員という仕事も併せてやらせていただきます。



社外取締役 原田美穂

以前は、海外へのツアーコンダクターや訪日外国人に日本の文化や伝統、生活習慣などを紹介する通訳案内士も兼業していました。

**戎**●私は入社当初は総務人事部に配属になり、その中でも主に総務の仕事をしていましたが、その頃から採用には携わっており、今は組織改編により人事部に配属になって2年目になりました。

趣味は野球観戦に行くことです。友達について行ったのが最初ですが、だんだんルールがわかってきて、今は一人で京セラドームまでオリックスバファローズの試合を観に行ったりします。

**中村**●建築部設計課で建築物の構造設計を担当しています。入社後1年間は現場に従事していましたが、2年目以降は本社勤務です。

小学生の時からずっと同じ習字教室に通っています。昨年の昇段試験で師範になり、この先は展覧会などに応募して賞を目指していきたいです。

**大北**●出身が北九州・若松なので、小さい頃から若築建設を知っていました。関西の大学に通っていたこともあってか、大阪



戎美希 (本社人事部)



中村咲貴 (本社建築部)



大北伸子 (大阪支店営業部)



池田聡子 (九州支店建築作業所)

支店の営業に配属になり、主に官庁営業を担当しています。趣味はスーパー銭湯に行くことです。休日はゆっくり温泉に入り過ごすことが多いです。

**池田**●出身は佐賀県です。もともと学生の頃から現場配属の希望でしたので、1年目から九州支店で施工管理をしています。現在、福岡で3現場目の工事を担当しています。趣味はゴルフです。なかなかベストスコアは出ませんが、多い時は毎週行ったこともありました。

**若築建設へ入社を決めた理由を挙げるとしたら何ですか。**

**戎**●業界を建設業界に決めたのは、民間企業の中でもかなり堅実な業種だったからです。若築建設は創業120年以上も続いている歴史のある会社だと興味を持ち、説明会に参加しました。その説明会で、当時30代後半の男性と20代半ばの女性の採用担当の方の掛け合いというか、空気感が良いと思いました。女性の方も上司を信頼して、上司も部下に任せているところが、性別関係なく対等な感じがしました。それが入りたかったきっかけです。

**中村・大北・池田**●私も採用担当者や面接時の雰囲気が良かったのが決め手です！

**中村**●私は会社説明会を30分遅刻したのですが、それでも書類審査や最終面接に通りました。このような人間に内定を出していただいたので、ここで働くしかないと思いました。(笑)

**大北**●私は、社会科見学などでわかちく史料館に行っていたことも大きいと思います。

**池田**●もともと全国区の会社を希望していましたが、規模の大きい会社であっても一人一人に気を掛けてくれる会社なのではと思いました。

**現在の仕事を教えてください。**

**戎**●現在、私と後輩二人の採用チーム3名で新卒への会社

のPR説明会などを行い、同時に内定者のフォローと内定式や新入生研修に向けて準備を行っています。3名で上手く役割分担をして、どちらも丁寧に対応できるよう心掛けています。入社してみると、上司の方は業務を丁寧に教えて下さり、想像していた通り入社して良かったと思っています。一方で、後輩として男性社員2名が入社し、自分が良いと思った空気感を作り出しているのかというと不安もあり、試行錯誤している途中です。

**中村**●構造設計の業務において、建物の柱、梁や床の強度を計算し、建物を建てる際の申請に必要な計算書を作成する作業がメインです。また現場からの検討依頼に答える業務も多いです。現場の仕事にも興味はありましたが、大学で建築の構造に関わる研究室に所属していたこともあり、今は自分が志望した仕事できています。

**大北**●今は官庁営業の入札準備など、事務的な仕事を主にしています。スケジュールをしっかり把握して上司に確認しながら進めています。もともと営業志望でしたが、会社説明会では最初に営業に配属されることはないと言われていたので、営業に配属と聞いたときは驚きました。現在は業務の流れに慣れてきました。ただ、工事の内容や案件を把握する上でわからない事はまだまだあるので、勉強不足だと感じることもあります。

**池田**●現在3現場目ですが、想像通りのきつさもあります。そして想像を遥かに超える仕事量です。1年目、2年目は言われたことをがむしゃらにやるしかなかったのが、年数を重ねて工事主任という立場を与えていただき、それに合った仕事をしようと思ったら今がとても大変です。3年目ぐらいは、仕事のこともわかってきて少し楽しいと思う瞬間もありました。現在は所長の補佐的な役割として図面チェックをメインに、工程管理等にシフトチェンジしながら、今まで自分が担当していた仕事を後輩に教えるようにしています。今までで一番責任を感じながら仕事をさせてもらっていると思います。後輩には、私が教わったことをそのまま教えるのではなく、人それぞれの出来る仕事や向き不向きをわかった上

で教えていかないといけないと思っています。また、各々のやり方などもあるので、間違いを指摘するのではなく、自分だったらこうするといったアドバイスのような教え方も必要だと思っています。

## 現在の仕事のやりがいは何ですか？

**戎**●採用がメインになってからは、同業他社の人事部の方もお話しする機会があります。他社では新卒採用、内定者フォローと新入社員研修の3つに担当が分かれていることが多くありますが、若築建設では全てを担当しているので、新入社員がゴールデンウィーク明けにそれぞれの配属先に向かい、無事送り出せた時にやりがいを感じます。大学生の頃から関わった新入社員たちの良い評判を耳にしたり、成長した姿を見かけると嬉しいですし、自分も頑張ろうという気持ちになります。

**中村**●設計の仕事では、建築申請を出さなければいけないので、その申請を出して確認済証が発行されると、建物がまだ全然できていない状況ですが、ひとまずホットしますね。やりがいといったプラスの感情というよりは、申請の時期が後々の工程に響いてくるので、期日を確実に守らなければという緊張感が強いです。確認済証が降りた後は、現場の方からの変更を一つ一つチェックし対応しなければなりません。また図面を書くときは、誰が見てもわかりやすい図面になるように心掛けています。計算書も書式が決まっているわけではないので、毎回改良を重ねています。

**大北**●当たり前ですが、工事を受注できた時はやりがいを感じます。今まで頑張ってきた作業が報われた気がして嬉しい気持ちになりますし、関係者の方に伝え、互いに喜び合う瞬間です。年に1、2度は入札に行くこともあり、くじ引きになる時もあるので、その時はいつも以上に責任を感じます。運も実力のうちと言いますが、くじ引きで何億の工事が決まることに最初はすごく驚きました。

**池田**●まだ2度しか経験していませんが、完成して無事に引き渡しができる時が、乗り越えたって思います。2つ目の現場がマンションだったのですが、最後にお住まいになられるお客様とも関わる機会がありました。その方たちは私たちの仕事を知らないはずなのに「大変だったでしょうね。ここまで綺麗にしてもらって嬉しいです。」という言葉聞いた時に、グッと来たことがありました。また、職人さんを相手にしているので、担当した人たちに対しては怪我無く安全に良いものを作ってもらいたいと思います。きつく言わなければならぬ事もありますが、最後その人たちが現場を出ていくときに「有り難う」と言ってくると、その瞬間のために自分はやっているんだと思います。

**原田**●私も皆様と同じように司法書士として、お客様から

感謝された時はやりがいを感じます。通訳案内士としては、お客様と別れる時に日本に来て良かった、楽しかったと言われた時ですね。

異なる分野の語学と法律ですが、興味のあることを続けていたらリンクすることもありました。先日、通訳の友人からアメリカ人の知人が日本人の妻に日本にある財産を相続させる遺言をしたいが、公証人から通訳が必要だと言われて困っていることを伺いました。そこで私が通訳兼コーディネーターとして立ち合い、無事に公正証書遺言が作成できた際、その方々はとても喜んでくださったので、お役に立てて良かったと思いました。

## 女性が働く職場環境として、若築建設の良い点・悪い点がありますか。

**戎**●男女平等に扱ってもらえる点は良い点だと思います。距離感についても、ハラスメント等問題になる情勢のなかで気を遣って下さるのを感じます。

先がわからないという不安は確かにあるので、子育てと両立しながら働いている方が数名いらっしゃいますが、その方々が今後どうなっていくのかを私たちも見ながら自分の将来の参考とさせていただきたいと思っています。

**中村**●私の母もゼネコンで働いていましたが、当時はコピーを取ったりお茶を入れたりなど女性だから頼まれる雑用があったと聞きました。今の部署で働いていると下っ端だから頼まれる雑用はありますが、女性だから頼まれる雑用はないように思います。男性の後輩が入ってくると私が今までしていた雑務は後輩がやるようになりました。その点は、働きやすいと思います。

**大北**●男性社員のトイレが長蛇の列の中で、女性社員のトイレが混まないのは嬉しいです。(笑) また営業をしていても、若い男性社員よりも興味を持って話を聞いてくれると感じます。一方で、配属された大阪支店に総合職の女性がいなかったため、初めは何を着て会社に行けば良いかもわからず悩みました。現在も自分がどういう風に進んでいったらいいかとすごく考えます。

**池田**●以前、現場に従事する300人の中で女性1人の時がありました。その際のトイレがすごくきれいで配慮されました。また職人さんたちも男性社員には厳しくても女性に対しては優しく、それは私にとっては働きやすいなと思うところです。

不安な点は、施工管理をする女性が増えてきていますが、子供ができた時に今まで通り働けるのかということです。特に現場だと動き回って働くので、私自身ずっと現場を続けていきたいと考えていましたが、今の働き方では続けていくのは難しいとも思います。ロールモデルや実績も少なく、不安があります。

**原田**●皆さま建設業界のトップランナーとしてご苦勞あると思います。私たち司法書士のような専門職としては、特に性別を意識することはありませんでしたが、4年間、北九州日米協会の会長をさせていただいた時に参加したディスカッションのテーマが「ガラスの天井」についてでした。アメリカのように女性が活躍している国でも、女性のキャリアアップには「目に見えない障壁」があるのかと意外でした。

大統領選でヒラリークリントン氏がトランプ氏に負けた際の敗北宣言でも、この言葉が使われたのを思い出しました。

「ガラスの天井」を打ち破ってくれる女性候補が現れるのを期待していると。女性が働きやすい「ガラスの天井」のない組織は持続可能性の向上にもつながると思います。

### 休日の過ごし方（ワークライフバランス）について教えてください。

**戎**●私は空港に行ったり飛行機に乗るのが好きなので、休みがあれば飛行機に乗っています。羽田空港などの展望台でボーっとしている時間も好きです。

**中村**●好きなアーティストのライブに行くのが好きで、地方で開催されるライブにも遠征します。

**大北**●私も好きなアーティストのライブに平日早く仕事を終わらせて行くというのが、モチベーションの一つになっています。

**池田**●私は色々な人と会って遊ぶのが好きなので、自分が何かをしたというよりも、友達に会うことがモチベーションでありストレス発散になっています。以前より都心の現場になったので会える機会が増えて嬉しいです。

**原田**●旅行が好きで40か国以上行っています。インドで修業したこともあるので、毎朝のヨガは習慣にしています。月曜はストレッチ、火曜はヨガ、水曜は水泳、木曜は社交ダンス、金曜は韓国語教室という、学生時代の部活のような生活をしています。

### 今後の目標（キャリアアップ）はありますか。

**戎**●私は入社して総務や人事などの仕事をしてきましたが、より幅広い業務をしてみたいという気持ちがあり、支店に行き

たいと思っています。支店業務に対応できるように建設業経理士2級の資格を取りましたが、実務経験がないのでまだ自信にはなっていません。

**中村**●社会人としての目標は、5年後、10年後に今の部署の先輩たちのような仕事ができるようになっていくことです。構造設計の担当は人数が少ないので、各支店の建築部長と直接メールをすることもあり、やはり技術者として力を付けたいと思います。4年後に受験できる資格に構造設計一級建築士があるので、今後の目標にしています。

**大北**●私は、自分の後輩ができた時に先輩としてお手本になれるようになりたいと思っています。現在は営業が主な仕事ですが、営業以外の仕事も経験したいです。昨年、宅地建物取引士の資格を取ったので、今後は衛生管理士の資格にチャレンジしたいです。

**池田**●4年間で培ってきた現場の職人さんとの人間関係は自分の自信になっています。ただ、仕事として自分の要求を伝

えないといけなくとも増え、可愛がってもらうだけではなく、対等に仕事の話ができるようになっていかなければいけないと思っています。

今年目標にしていた一級建築施工管理技士の一次試験に通ったので、秋の二次試験に向けて勉強を頑張りたいと思っています。

**原田**●それぞれの分野で資格を取られていてすばらしいで

す。資格は興味があるものを取っていけば、相乗効果を与えてくれると思います。

視野を広げるという意味では、私も参加し、ブラジルに派遣された「内閣府の青年国際交流事業」はとてもおすすめです。再生可能エネルギーや持続可能なインフラの整備など様々なテーマがあり、若築建設の事業と結びつく内容も多いと思います。通訳がつくプログラムもあるので、ぜひご興味があれば応募されてみてください。

若築建設では、資格取得をサポートするシステムも充実しているので、今のご自分のポジションに関する資格だけではなく、将来的にご興味のある資格も取っておかれると、お仕事の幅も広がりキャリアアップに役立つと思います。





## 山田町メガソーラープロジェクト建設工事のうち土木工事

発注者 ツバキソーラー合同会社

本事業は、岩手県下閉伊郡山田町のメガソーラー発電所工事に伴う造成工事を施工するものです。発電出力26.5MWで、初年度の年間発電量は約33,000MWh/年を見込み、これは一般家庭約7,400世帯の年間使用電力量に相当します。



## ビューテック株式会社市原営業所新築工事

発注者 ビューテック株式会社

本事業は、当社の設計施工による物件で、倉庫棟全長が220m、区画数は8区画(区画間口は22m~33m)となっています。物流倉庫としての使い勝手を良くするために、柱の本数を在来工法より少なくする事が可能となるシステム建築を採用しています。また、トラック動線についても、入退場時のストレスを無くすために1way動線の計画にしました。



## 令和元年度名古屋港金城ふ頭岸壁(-12m)築造工事

発注者 国土交通省中部地方整備局

本事業は、自動車関連産業の国際競争力を維持・強化することを目的として、名古屋港金城ふ頭地区において、非効率な荷役形態の改善および船舶の大型化への対応を図るため、施設利用の再編に合わせて水深12mの国際物流ターミナルの整備を行うものです。本工事は、名古屋港金城ふ頭岸壁(-12m)の基礎工および本體工(ハイブリッドケーソン)を施工しました。



## 株式会社北拓福島支店建屋建設工事

発注者 株式会社北拓

本物件は、福島県いわき市北東部の産業拠点として平成18年4月に誕生した自然豊かな環境共生型ニューファクトリーパークであるいわき四倉中核工業団地に位置します。本事業は、メンテナンス技術員トレーニングセンター・24時間遠隔監視センター・風力発電用部品倉庫の機能を持つ建屋の建設工事で、当社で施工した株式会社北拓北九州支店に続き、第2の支店となります。



## 波松風力発電所造成・基礎工事

発注者 波松風力株式会社(株)JWE

本工事は、福井県あわら市の波松風力発電所建設工事のうち、敷地造成の土木工事で、発電出力2,350kW×3基で計7,050kW程度の波松風力発電事業の基礎工事(3基)を行うものです。工事に伴う搬入路の確保においては、農道を利用し、掘削・盛土した農地に敷鉄板を敷き、搬入道路を作成しました。



## 株式会社スズキ自販南東京 アリーナ羽村 移転新設工事

発注者 スズキ株式会社・株式会社スズキ自販南東京

本物件はJR青梅線の羽村駅と福生駅の間地点の西多摩産業道路沿いに位置し、交通量が非常に多い地域です。また、近所には日本車のショールームが数多く立ち並び、激戦区でもあります。本事業は、設計施工物件で、調布、八王子での工事実績から受注した物件であり、既存店舗を移転しサービス工場の数や駐車スペース拡張を目的とした大型店舗の新築工事になります。



### 令和2年度 設楽ダム右岸工事用道路工事

発注者 国土交通省中部地方整備局

設楽ダムは豊川の河口から約70km上流、北設楽郡設楽町で建設計画が押し進められている重力式コンクリートダムで、完成すれば愛知県内で最大（高さ約129m、総貯水量9,800万㎡）のダムとなります。本工事は設楽ダム建設に伴う工事用道路の一部として、設楽町松戸地区の寒狭川右岸において延長約213.5mに渡る鋼製の仮橋を構築するものです。



### 九州新幹線（西九州）、嬉野温泉（仮称）駅外1箇所新築

発注者 独立行政法人鉄道建設・運輸施設整備支援機構

西九州新幹線は、福岡市と長崎市を結ぶ整備新幹線計画のうち、武雄温泉駅～長崎駅間をフル規格新幹線として整備するもので、2022年9月に開業しました。本工事は、高さ11m、延床面積5,397㎡、鉄骨造地上1階建ての嬉野温泉駅を新築するもので、当社は、新幹線・駅舎（建築）の施工に初めて携わりました。



### 令和3年度八代港大築島土砂処分場地盤改良工事（第2次）

発注者 国土交通省九州地方整備局

本工事は、八代港大築島において、土砂処分場の共通工およびサンドコンパクションパイルによる海上地盤改良工を施工するものです。発注当初より、数量変更、工種の追加等がありましたが、工期内に無事完成し、発注者からも高評価を得ることができました。



### 水島港玉島地区航路（-12m）浚渫工事

発注者 国土交通省中国地方整備局

本工事は、水島港玉島地区航路（-12m）の浚渫工、土捨工を施工するものです。施工場所の近隣で行われる海苔養殖の関係から、浚渫工の完了工期がタイトであるなか、空気圧送船の不具合により、作業進捗の遅れが発生していましたが、排砂管ルートの変更をはじめ、空気圧送船の入れ替え等の対策を講じたことにより、無事、指定工期内に竣工することができました。



### 筑後川下流右岸農地防災事業徳永線（1期）水路改修工事

発注者 農林水産省九州農政局

本事業は、筑後川下流右岸側地域のクリーク法面の保護整備をおこなうことにより、排水機能低下を防ぎ広域的な湛水などの災害を未然に防止するとともに農業生産の維持および安定、国土保全を図るものです。本工事は、佐賀市川副町内の徳永線のクリーク法面整備を4工区に分割し、実施するものでした。



### 苅田バイオマス発電所建設工事

発電事業者 苅田バイオマスエナジー株式会社

本事業は、福岡県苅田町新松山工業団地内に発電規模75MWのバイオマス発電所を建設するものです。本工事は、苅田バイオマス発電所建設工事のうち、プラント工事を除く土木建築工事を行いました。約3年にわたる工事期間で無事故・無災害で竣工でき、発電事業者および元請業者より高評価を受けました。

技能労働者の高齢化、人手不足といった課題や働き方改革の取り組みなどへの対応は急務であり、建設現場における「生産性の向上」や「労働環境の改善」を目的として、ICT技術の活用をベースとしたi-Constructionに取り組んでいます。

## 海上施工におけるICT技術の活用（八戸港）



### 工事概要

- 工事名：八戸港八太郎・河原木地区航路泊地（埋没）付帯施設築造工事
- 概要：ケーソン(595t)据付4函、消波ブロック(12t型)据付299個、ほか
- 発注者：国土交通省 東北地方整備局
- 工期：2021年06月～2022年06月



◀ ICTを活用した施工状況はこちら

### 技術的課題

外洋に面し波浪の影響が大きい条件下において、ケーソン（防波堤を構成する鉄筋コンクリート製の大型構造物）の曳航・据付を安全、正確かつ効率的に施工するために、ケーソンの位置や深度などの情報をリアルタイムで把握する必要があり、同様に防波堤の消波ブロックや根固ブロックの据付作業においても課題となっていました。このような技術的課題を解決するため、さまざまなICT技術を活用した施工を行い、生産性の向上を図りました。



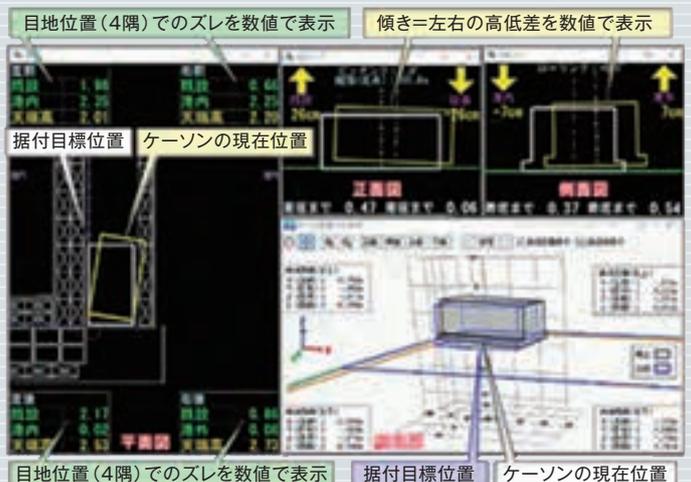
### 活用したICT技術

#### ケーソンの曳航・据付

#### ケーソン据付支援システム「WIT C-Moni」 (NETIS: KTK-150003-VE)

GNSSと傾斜計を使用して、ケーソンの位置や姿勢の情報を常時取得し、モニターに表示するシステム。

このシステムにより、ケーソン位置などを正確かつ迅速に測量でき、測量作業を無人化できることが確認できました。また、据付作業に関わる管理者とウインチ操作者などの間で、リアルタイムに位置情報などが共有でき、施工効率と安全性を向上させることができました。



ケーソン据付時のモニター画面

## 根固ブロック据付

### 高精度水中ブロック据付支援システム

「WIT B-Fix Neo」(NETIS: KTK-210007-A)

ブロックの2箇所に取り付けたトランスポンダーから発信される水中信号を、複数のトランスデューサーで受信し、三角測量の原理でブロックの位置と方位を把握するシステム。

- 根固ブロックの状況を正確かつ迅速に測量することができ、潜水士による誘導作業を無人化できることが確認できました。また、据付作業の管理者や起重機船上のクレーン操作者が、正確な測量結果をリアルタイムで情報共有できるため、ブロック据付作業の効率と安全性を向上させることができました。

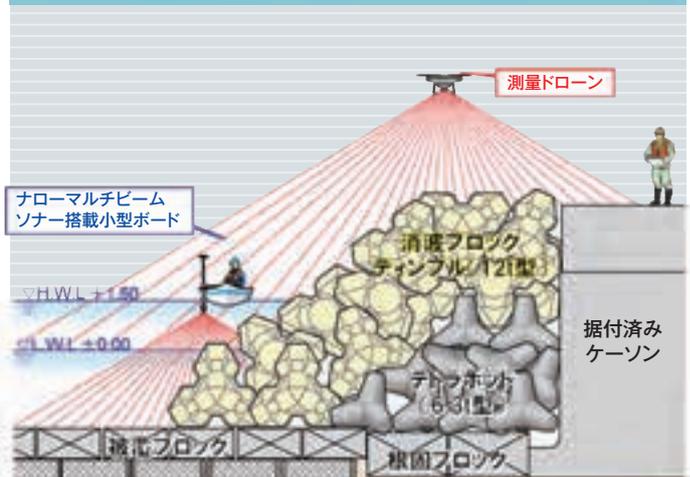


## 消波ブロック据付

ドローンおよび小型ボートによる三次元測量システムを導入して、気中および海中における面的測量を、施工中および施工完了後の段階で行いました。

この測量によりブロック据付状況の把握や、据付完了後の

消波ブロックの出来形確認を少人数で効率的に実施することができました。また、消波ブロック上や海中における作業員や潜水士の作業が不要になるため、測量作業の安全性を向上させることができました。

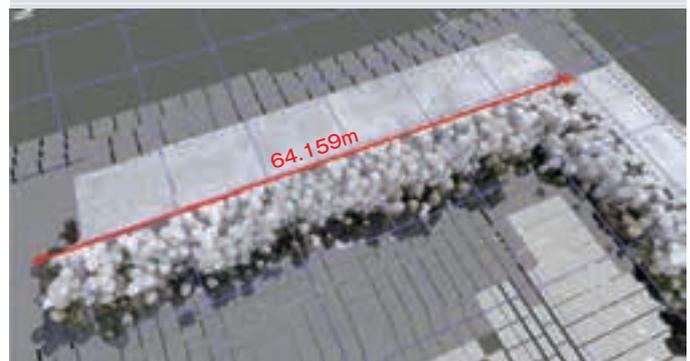


## CIMの全面活用

これらのICTを活用した計測・測量結果は、経年による状態変化を確認できるよう、CIMを活用して整理し、記録を保管しました。

## ICT技術活用の効果

ICT技術により作業量を削減することができ生産性の向上が確認できました。この工事ではケーソン据付と根固ブロック据付がクリティカルパスでしたが、ICT技術の活用により厳しい条件下でも工程遅延を生じさせず確実な施工が実現できました。さらに、消波ブロック上など危険な場所での計測・測量作業が不要となり、作業の安全性が向上し、ひいては生産性の向上に繋がりました。



ICT技術	従来的方法			ICTを活用した方法			作業量の削減効果
	作業員数	作業時間	作業日数	作業員数	作業時間	作業日数	
WIT C-Moni	16人/日	10分/函	3日	14人/日	8分/函	3日	作業量を6人・日削減
WIT B-FixNeo	8人/日	6時間/日	2日	3人/日	3時間/日	1日	作業量を13人・日削減
無人測量システム	3人/日	6時間/日	2日	2人/日	2時間/日	1日	作業量を4人・日削減

※ 作業量の削減効果=(従来の作業員数×作業日数)-(ICTを活用した作業員数×作業日数)

# 河川工事におけるBIM/CIM活用(荒川)

建設生産管理システム全体の課題解決および業務の効率化を目的とする国土交通省のBIM/CIM活用工事(発注者指定型)において、さまざまな場面でBIM/CIMを導入し生産性向上に役立てました。 ※BIM/CIM(Building/Construction Information Modeling . Management)

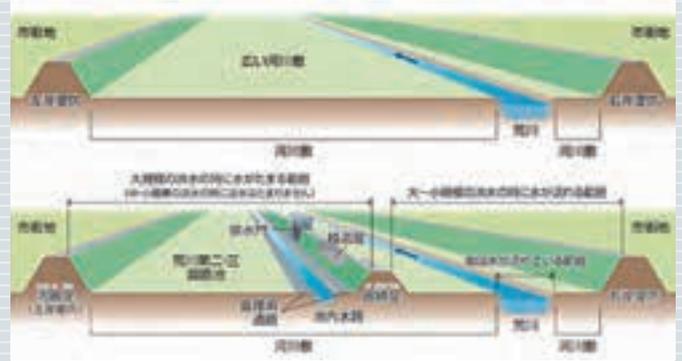


現場航空写真

## 事業概要

人口や建物などが集中している埼玉県南部と東京都区間の荒川流域を洪水から守るため、「荒川第二・三調節池」を整備する事業です。

※荒川第二・三調節池整備事業について  
(国土交通省 荒川調節池工事事務所)



## 工事概要

- 工事名：R3荒川第二調節池基盤整備その2工事
- 概要：荒川第二調節池の囲繞堤築造に伴う基盤盛土及び管理用道路造成
  - ・土工(ICT)、法面整形工(ICT)
  - ・排水路工 ・舗装工 ほか
- 発注者：国土交通省関東地方整備局
- 工期：2021年9月～2022年6月

BIM/CIMモデル(3次元モデル)の活用を通じて、**官民一体で現場の生産性を向上**させる取り組みを行っています。



国土交通省 荒川調節池工事事務所  
DXだより(11号でこの工事が紹介されています)



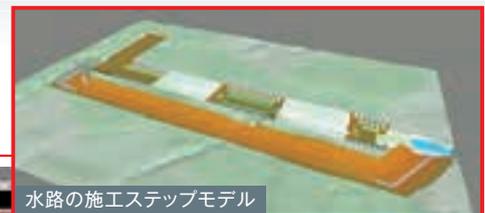
DXで変わる建設現場  
若築建設が取り組む3次元モデル活用事例



R3荒川第二調節池基盤整備その2工事

## 生産性向上の取り組み

### BIM/CIM モデルを活用した関係者間協議の効率化



水路の施工ステップモデル



現場条件を発注者と共有でき  
設計変更や協議がスムーズに

発注者 ↔ 請負者

設計変更等の協議がスムーズに行えます。



請負者 ↔ 協力業者

イメージが湧きやすく、作業手順等をわかりやすく説明することができます。

## VR(仮想現実)を用いた浸水シミュレーションによる安全教育



台風に伴う降雨開始13時間後 河川の水位が上昇



台風に伴う降雨開始29時間後 重機が水没

### 効果

2019年の台風19号による豪雨データを基に、仮想空間内で実際に起こりえる災害を再現しました。

- ➔ 災害シミュレーションの説得力の向上
- ➔ 避難シミュレーションの精度向上

### 作業現場の声

- 安全教育で活用した際、増水時の現場状況を視覚的にイメージさせやすかった。
- 浸水域が広がる時間感覚を共有でき、退避計画の説得力が増した。



活用イメージ



VR機材

## AR(拡張現実)モデルを作成し、タブレットでの説明資料として活用



タブレットアプリ内に仮想重機モデルを配置



タブレット内でマーカーによる3次元モデルの位置合わせ

### 効果

- タブレットを通して、ARモデルと重ねて現場を見ることで、その位置の将来の状況や仮想の状況を実際に見ることができます。
- 同じARモデルを見て打合せを行うため、認識の不一致から生じる生産性を損なうような手戻りが生じにくく、効率よく作業を進めることができます。

## 働きやすい職場環境

### いきいき職場の創造

社員の健康と安全を重視し、「働き方改革」を進めていくことで、働きやすく働きがいのある職場環境の実現を目指し、会社・労働組合・健康保険組合が協調して活動しています。具体的には、育児・介護のための休業制度や、有給休暇取得の積極的促進、社員の心身の健康サポートなど、ワークライフバランスを向上させ、健康経営の促進に取り組んでいます。

また、新入社員の集合教育や階層別の研修制度、OJT制度、公的資格取得奨励の実施、働きたい部署や個人的な事情などを会社に申告できる自己申告制度、目標管理制度など、社員ひとりひとりの適性や家族の事情に配慮し、安心して、意欲を持って仕事に取り組める仕組みを整備しています。

新型コロナ禍においては、新たなワークライフバランスと仕事の効率化を目指し、職種に適應した「多様な働き方」を推進します。



### 若築建設奨学金制度

若築建設奨学金制度は、海洋国の礎を築く人材を育成するため、海洋利用開発に高い志を持ちながら、経済的理由により学業の継続・進学が困難である高等専門学校生を対象として、奨学金の給付を行っています。「ものづくり」を通じて、「やりがい」や「達成感」が得られる建設会社において、活躍したいと考えている学生を応援します。

### 65歳定年制の導入

当社は、働き方改革の一環として、2020年4月1日から65歳定年制を導入しています。65歳定年制の導入により、長年培ってきた豊富な経験や高いスキル、様々な専門知識を持ったベテラン社員の更なる活躍を期待し、60歳以降も安心して働ける環境の提供を図っています。

当社では今後も働き方改革を進め、ベテラン社員・若手社員にかかわらず、多様な人材が安心して働き、活躍できるダイバーシティを推進することで、企業を継続的に成長させ、社会からの期待に応えられるよう目指します。

### 障がい者の雇用と活躍

障がいを持つ方が、障がいのない方と同じ職場で、その能力と適性に応じて活躍できることをめざし、働きやすい環境を整え、障がい者の雇用促進をはかっています。

2022年6月時点で、障がい者雇用率は2.59%（法定雇用率2.3%）です。

## わかちく社員教育プロジェクト『はぐくみ』

個々の社員が日々目標を持って業務に従事し、成長しながらキャリアを築いていけるよう、わかちく社員教育プロジェクト『はぐくみ』を推進しています。効果的な社員教育による若手社員の持続的な成長のため、以下の項目を実施しています。



### キャリアパスと研修ロードマップ



#### 1. 明確なキャリアプランの提示

従来、現場技術者に対してのみ設定していた階層別の必要スキルを、職種別で明確にしています。あわせて会社が期待するキャリアパスも提示することで、スキルアップへの意欲を高め自律的な成長を促します。

#### 2. 階層別研修、部門別研修の充実

若手社員の前向きな意欲に応えられるよう、キャリアパスを踏まえた体系的かつ効率的な階層別研修を計画し、研修ロードマップを示します。働き方が急速に多様化していることを踏まえ、様々なキャリアに対応した部門別研修も実施しています。

#### 3. クラウド型教育システムの導入

全国各地の現場職員に効率的な教育が実施できるよう、クラウドシステムを利用した教育システムを導入しています。これにより、一級土木施工管理技士試験の合格率が向上するなどの成果が上がっています。

## 健康の増進

社員とその家族の幸せと、活力ある職場づくりには、心身ともに健康であることが重要です。当社は、若築建設健康保険組合と協力して、様々な健康増進策に取り組んでいます。

若築建設健康保険組合では、病気の早期発見・早期治療に役立つ特定健診や健康増進に役立つ特定保健指導を実施し、人間ドック補助金支給などを行っています。また、積極的な健康増進のために、ウォーキング大会、体育奨励事業を行い、社員とその家族の様々な健康づくりを支援しています。

健康相談窓口として、健康に関する不安や心配に電話でお応えする「ファミリー健康相談」、メンタルヘルスにつきましては、臨床心理士のカウンセラーとの電話および面接による「メンタルヘルス・カウンセリング事業」を提供し、社員とその家族の心身の健康増進と、問題への早期対応に努めています。

万一、社員やその家族が対象疾患と診断されたときには、専門医同士の相互評価に基づいて選出された優秀な専門医をご案内し、またはセカンドオピニオン取得をお手伝いする「ベストドクターズ®サービス」を行っています。



PepUpの画面

また、新型コロナウイルスの終息が見込まれない中、季節性インフルエンザの感染者が出た場合には業務に支障をきたすばかりか、社会的混乱を招く要因ともなるため、2020年度よりインフルエンザ予防接種の費用を会社と健康保険組合が全額負担し、予防に努めています。

新型コロナウイルス対策としては、一日でも早くワクチンを接種することが、事業の継続や職場環境の改善に必要と判断し、希望する社員ならびに社員の家族に、当社・大本組・株木建設が共同して新型コロナウイルスの職域接種を実施しています。2022年6月時点で3回目の職域接種が完了しています。



新型コロナウイルス職域接種



ウォーキング大会ルートマップ

## 若築建設労働組合

若築建設労働組合は、スローガンとして「結志(ゆうし)～組合員一人一人の知恵と力を集結させ、働きがいのある職場環境づくりに邁進する～」を掲げて、働きがいのある職場環境の実現に向け、より魅力的な会社となるよう努めています。



労使懇談会(対面+Webのハイブリッド形式)

その重点活動内容は、①安定した生活の維持のための賃金交渉 ②働きがい向上のための待遇改善 ③休暇取得、時短、推進等について会社側と意見交換・情報伝達の機会を増やし、現状の相互理解・把握に努め労使にて共通認識を持つと共に、業務改善に向けた積極的な提案の実施 ④同業他社労働組合と、労働条件の改善に向けた情報交換の実施 ⑤人的交流を活発にするために、支部の枠を越えたレクリエーション部活動や組合研修の開催等です。

また新型コロナ終息後を見据えたテレワーク制度化等の「多様な働き方の推進」や、いまの時代に合った各種制度の見直しについて、会社と共同で取り組んでいます。

2021年度には結成75周年を迎え、記念イベントとして”私の「ワーク・ライフ・バランス」”をテーマに、組合員を対象としたフォトコンテストを実施しました。また、親しみやすい組合のマスコットキャラクター(わくろー)を作り、組合活動のPRも積極的に行っています。



フォトコンテスト応募作品を活用したPRポスター

# 育児休業取得者へのインタビュー



九州支店  
齋藤 和



## どのくらいの期間、育児休業を取得していますか。

出産予定日の一週間前から有給を取得し、その後11カ月の育児休業を取得しています。10月1日から復職予定です。休業前に従事していた現場の竣工日が9月30日、検査日が10月13日だったため、取得しやすいタイミングでもありました。



## 育休を取得するキッカケはありましたか。

子育ては妻だけに任せるのではなく、夫婦でするものと認識しています。産前産後の妻の体調や精神面を考慮し、育休を取得したいと日々考えていました。

また、生まれてから1歳になるまでの子供の成長スピードはとてつもなく早く、一生のうちに二度と見ることができない貴重な時間です。仕事はこれから先何十年の付き合いとなりますが、子育てでは親が子供に手をかける時間や期間がある程度決まっていると思っています。その貴重な期間を夫婦で見守りたいという気持ちが強かったのも育休を取得するきっかけでした。

育休取得にあたっては、3・4カ月前から上司に相談しました。男性の育休は当社でも事例が少ないことなので、上司と綿密にやりとりしながら準備を進めていきました。

## 育休取得中に思い出に残ったことはありますか。

生まれてからしばらくはいくらあやしても反応がなかったのですが、生後二カ月頃に初めて親の顔を見て笑ってくれたときは、夫婦で嬉し泣きました。

## 苦労したことはありますか。

自分たちの時間が一切なくなり、子供中心の生活になったことです。また、夜間・早朝の授乳が大変で、未だに慣れません。

## 仕事に復帰するに当たり、不安はありますか。

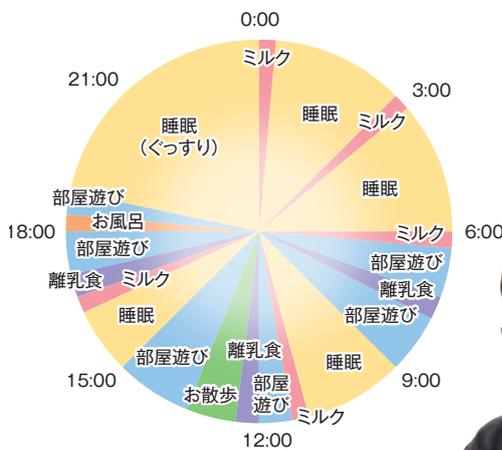
次に配属される現場の場所がどこになるか、現場近くに保育園があるか、送り迎えに伴う時間の調整が現場でうまくいかなど、不安はたくさんあります。

特に不安なのが、送り迎えです。妻は復職後、テレワーク主体の働き方になりますが、週2日程度で博多区にある会社へ出勤するため、私が送り迎えをする必要があります。また、子供の突発的な病気や、保育園からの呼び出しに伴うお迎え・病院等、急を要する場合があります。そういった場合に配属された現場の上司や同僚の理解が得られるかどうか不安なことです。

## 育休を取得した感想を教えてください。

育児休業はよく「休暇」なんて間違われますが、全く休暇なんてなくて毎日大変です。深夜何時に起きるかわからない、なぜ泣いているかわからない、離乳食を食べない、寝ない、赤ちゃん中心の生活です。ですが、この育休を取得したことによって、この前までできなかったことが徐々にできるようになっていく子供の緩やかな成長もしっかりと見守ることができたのは貴重な体験であり、楽しい日々でした。これで終わりではなく、これから大変な育児が始まるので頑張りたいと思います。

男性の後輩にも育休を取ってもらえるように、育児休業規定の認知度向上や取得しやすい雰囲気づくり、復職後の会社からのフォロー等を充実してほしいと切に願います。





九州支店  
吉國 兼世



### どのくらいの期間、育児休業を取得していますか。

4月11日から半年取得し、10月11日から復職予定です。次女が生まれる2月からの取得も考えましたが、従事していた現場の竣工日が3月末で、竣工検査を無事に終えるまで責任を果たしたいと思い、4月11日からにしました。



### 育休を取得するキッカケはありましたか。

人事通報で齋藤和さんが育休を取得しているのを見かけたのがキッカケです。

長女の出産時には、単身赴任中で妻に育児を任せっきりだったので、次は力になりたいとはずっと思っていました。

そこで今回の次女出産時には、長女の保育園がコロナの影響で休園だったうえ、実家からの援助が受けられない状況だったので、育休を取得して家庭を支えなければならぬと決めました。

### 取得するにあたって不安などはありましたか。

現場でお世話になった上司に相談するときに、一番怖かったです。「男が育休なんて」と思われることは承知していましたが、家のことを考えたらそんな躊躇もしてられないと思い、思い切って打ち明けました。上司からは、「家族はそれで大丈夫か。2月から取った方がいいんじゃないか。」と、私の家庭の状況に寄り添って相談に乗ってもらえました。

### 取得を決めた後はどうでしたか。

次女が2月に生まれるのが前もって分かっていたので、仕事の書類作成などの業務もできることから早めに段取りをして取り組みました。次女が生まれてから育休に入るまでは、現場に出る時間を調整しつつ、内業の時間を増やすなどのやりくりをして、18時くらいには帰れるように頑張っていました。



### 思い出に残ったことはありますか。

先週、寝返りができたのを発見したときは、感動しました。わが子の成長を目で見れるというのは、育休を取得してよかったと思える出来ごとです。

### 苦勞したことはありますか。

育休を取得するまでは、普段の仕事よりきついことはないし、妻の負担を減らすことができればくらいと考えていました。しかし、家事にも段取りが必要で、妻は自分の何倍も効率的に家事と育児を両立してこなしていて、妻のすごさに気づくことができました。

また、夜3時間ごとに起きる子供の生活リズムに慣れることが一番大変でした。夜中に起きれるように大好きなお酒も控えるようになりました。

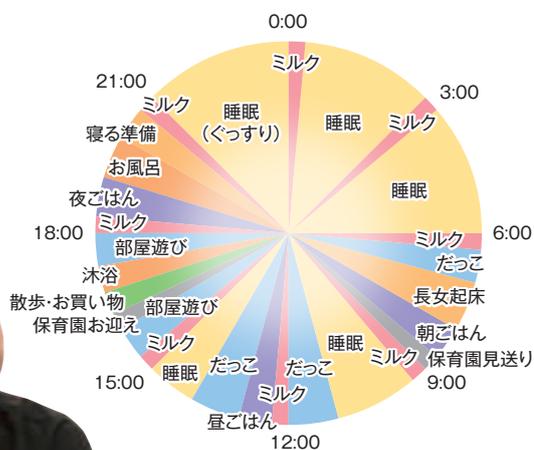
### 復職するにあたって、不安や会社への要望などはありますか。

仕事に復帰する不安が半分、子育てと両立していけるかという私生活での不安が半分です。職場復帰への不安を少しでも払しょくできればと思い、月に1度近況報告を上司にしています。

### 育休を取得してみた感想を教えてください。

仕事についての将来は常日頃から考えていましたが、育休中に家庭についての将来について深く考える時間ができました。この子を抱っこしている間は、頭の中で将来設計について考えています。

家族を養っていかなければならないので、職場に復帰したら、今まで以上に仕事を頑張っていきたいです。



## グラブ浚渫船のすべてのエンジンにGTL燃料を使用



当社は、保有するグラブ浚渫船「若鷺丸」において、環境負荷の少ないクリーンな天然ガス由来の軽油代替燃料であるGTL燃料を使用した実証テストを2022年1月～4月に行いました。

この燃料は、A重油と比較してCO<sub>2</sub>排出量を約12%削減\*、軽油と比較して8.5%削減\*できることや、黒煙が少なく無毒性であるなど、多くの利点を持っています。（※：伊藤忠エネクスの公表資料より。同一量を燃焼させた場合の削減量。）

「若鷺丸」には、(1) 浚渫機用、(2) スラスト用、(3) 停泊発電機用、(4) 主発電機用の4種類のエンジンがあります。(1)～(3)はA重油、(4)は軽油を使用しています。

実証テストは、同一量の燃料消費によるCO<sub>2</sub>の量の比較ではなく、同一の仕事をした場合の燃料消費量の違いによるCO<sub>2</sub>の量を比較しました。

その結果、GTL燃料は、A重油や軽油に比べて若干燃料消費量が多いものの、本船のエンジン燃料として全く問題が無いことを確認しました。

グラブ浚渫船「若鷺丸」は、浚渫機に回生エネルギーを利用することにより、すでに12%の燃費向上が実現できており、GTL燃料を使用することにより、更に環境に配慮したグラブ浚渫作業が可能となることが判明しました。

実証テストの結果を踏まえ、当社は、グラブ浚渫船「若鷺丸」が従事する浚渫工事へのGTL燃料の早期導入へ向けて関係各社と調整を開始しました。

当社は、「サステナビリティの追求～創業140周年に向けて～」を基本方針とした長期ビジョンを策定し、その中において「地球環境問題への対応」を重要な施策として掲げており、その取り組みを加速していきます。

天然ガス由来の  
環境にやさしいディーゼル機関代替燃料  
“GTL燃料”を使用しています

NETIS 登録番号  
KT-190065-A

若築建設
×
伊藤忠エネクス株式会社



バンカー船よりGTL燃料を給油

# 遠心脱水機による浚渫土砂の減容化技術

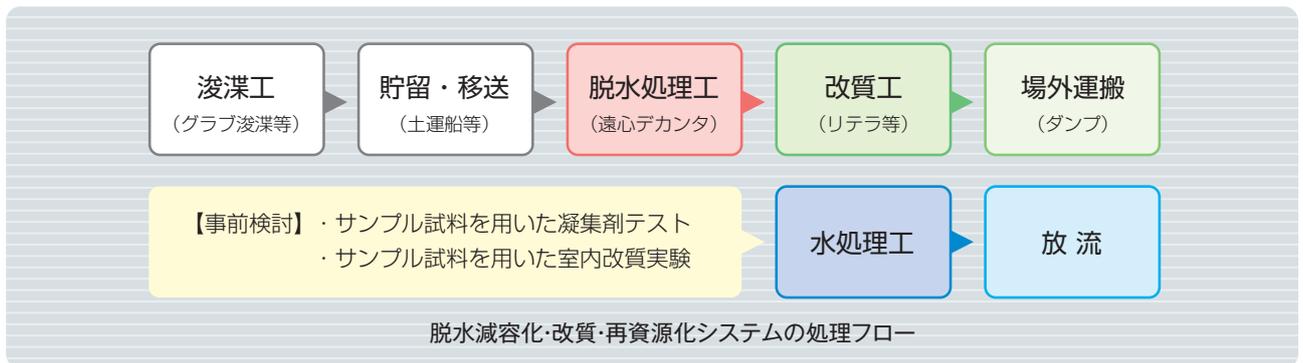
～浚渫ヘドロの脱水減容化・改質・再資源化のトータルソリューション～

埋立処分場の受け入れ容量の減少、処分費用の高騰化、天然建設資材の枯渇が叫ばれる昨今、港湾域や河川域から浚渫された高含水比泥土の減容化、再資源化に対する社会のニーズはますます高くなっています。従来は天日乾燥に期待する曝気工法、大量の固化材投入による固化処理工法、種々のドレーン材による圧密脱水工法などを用いて浚渫土砂を処理・処分してきましたが、用地確保が難しいこと、臭気問題が生じること、工期が長くなることなど、様々な課題がありました。

そこで当社では、運搬・埋立処分・再利用が困難な高含水比泥土（有機ヘドロなどの浚渫土砂）を比較的小規模な仮設プラント設備によって脱水減容化し、続けて少量の改質材を添加することにより、ハンドリング性が高く、所定の強度が付与された建設資材としてリサイクルするトータルソリューション技術を提供します。技術の核となるのは、機械脱水装置の一つである「スクリューデカンタ式遠心脱水機」および「連続バッチ式自走土質改良機」です。



浚渫土砂(有機ヘドロ)



当社では、脱水前後の浚渫土砂の含水比、各種改質材の種類と添加量、強度の相互関係をあらかじめ室内試験において検討する支援体制を確立しており、ローカル特性が強い有機ヘドロに対して最適な組み合わせを提案することが可能です。施工現場においては、脱水後浚渫土砂（脱水ケーキと呼ぶ）の含水比を計測し、改質材の適正添加量を迅速に決定する弊社独自の品質管理手法を採用します。これにより、施工効率性・経済性の向上、環境負荷の低減、浚渫土砂の適正処理・再利用の促進に貢献します。



スクリューデカンタ式遠心脱水機



連続バッチ式自走土質改良機

# 産学連携の取り組み

## 研究発表会の開催

当社は、2022年7月6日に研究発表会を開催しました。その概要は、当社の産学連携の取り組みとして、当社と共同研究または当社からの受託研究についての成果、内容を報告するものです。

研究発表会に先立ち、烏田社長より「私たちの建設業界は、ここ数年で大きく様変わりしました。現在、我々に一番求められているのは企画力であり提案力です。このようなことは、官庁の仕事でも民間の仕事でも、これから我々が伸ばしていけないといけないことです。本日の研究発表会により、知見を広げて、また新たな分野に一步でも進んでいきたい。」との挨拶がありました。



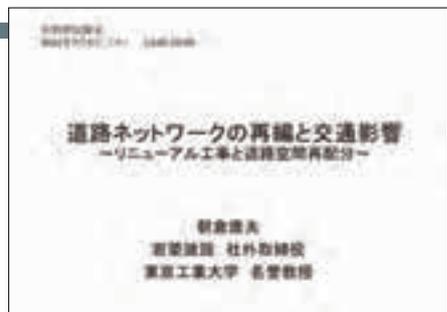
それぞれ研究発表に関する内容は以下のとおりです。

発表者 **朝倉康夫**

所属 東京工業大学名誉教授

研究分野 交通工学、国土計画

発表テーマ 『道路ネットワークの再編と交通影響』  
～リニューアル工事と道路空間再配分～



ご紹介

朝倉先生は交通工学・国土計画の分野における高度な学術知識と幅広い見識を活かして、永きにわたり様々な研究に従事されています。また、朝倉先生は当社社外取締役として経営の監督機能・透明性向上のため客観的な立場から助言・提言をいただいています。

発表者 **山下 淳**

所属 東京大学大学院 新領域創成科学研究科 人間環境学専攻 教授

研究分野 ロボット、コンピュータビジョン、画像処理

発表テーマ 『音響カメラを用いた水中3次元計測における精度、安定性の向上に関する研究』



ご紹介

山下先生は、ロボット工学や画像処理工学などの分野において、基礎理論から実応用まで、幅広く研究に取り組まれています。これらの分野において、先駆的な研究論文を国内外で発表されており、数多くの賞を受賞されています。

発表者 **齋田倫範**

所属 鹿児島大学 工学部先進工学科 海洋土木工学プログラム 准教授

研究分野 環境水理学、水工学 (環境システム工学分野)

発表テーマ 『**水域における凝集性細粒土砂の沈降・圧密特性に関する検討**』～鹿児島県恩川感潮域を事例として～



ご紹介

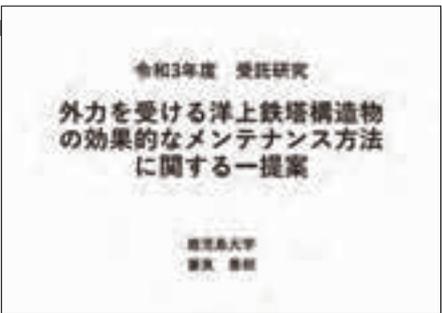
齋田先生は、沿岸部における物理現象の解明に重点をおいて研究を行い、様々なアプローチによって土砂動態の解明や土砂にまつわる諸問題の解決を目指しておられます。九州の沿岸や河川の学識者として様々な委員会やWGで広く活躍されています。

発表者 **審良善和**

所属 鹿児島大学 工学部先進工学科 海洋土木工学プログラム 准教授

研究分野 コンクリート工学、土木材料学、維持管理、腐食防食学 (建設システム工学分野)

発表テーマ 『**外力を受ける洋上鉄塔構造物の効果的なメンテナンス方法に関する一提案**』



ご紹介

審良先生は、腐食問題を中心にコンクリート及び鋼構造物の劣化進行メカニズムの解明及び劣化予測手法の構築や点検診断、補修補強技術の高度化を目指した研究を行っておられます。学会等の各賞の受賞や様々な社会貢献活動も実施されてます。

各発表の後、質疑応答があり、施工現場への導入時期など活発な意見交換を行いました。発表会の最後に代表取締役専務執行役員の石井建設事業部門長より「現在の建設会社業は様変わりして、生産性の向上そしてカーボンニュートラルなど取り組んでいかなければならない課題が沢山あります。その中で、やはり産学共同して先取りする研究をしていかないと、なかなか今後生き残っていけないという危機感を持っています。今後も共同研究、受託研究の提案をしますので、先生方のご指導をお願いいたします。」との講評がありました。



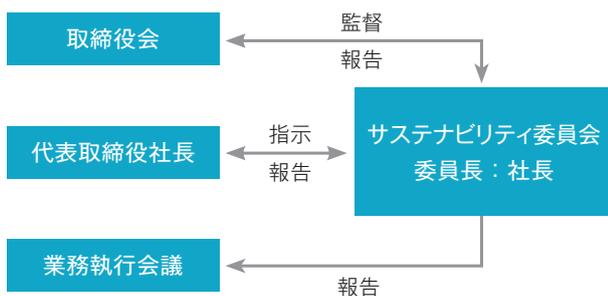
地球温暖化や気象災害の激甚化をはじめとする気候変動課題は喫緊の社会課題の一つです。温室効果ガス排出量の削減や海洋環境の維持をはじめとする環境保全に配慮した活動推進の一環として、当社は2021年6月にTCFD提言に賛同し、本年よりTCFDガイドラインに即した気候変動リスクおよび機会が及ぼす影響の評価の実施と、これを受けた対応策の検討および事業戦略への統合を図っています。本項では、その分析内容と気候変動に対する取り組み状況を紹介します。



## TCFD提言に基づく情報開示

### ガバナンス

気候変動をはじめとするサステナビリティに関連する重要事項は、代表取締役社長を委員長とするサステナビリティ委員会にて審議検討を行っています。サステナビリティ委員会は年に1回開催され、サステナビリティ委員会下の各部会で審議検討された内容に対する実行計画の策定と進捗モニタリングを行い、決議事項は取締役会へ報告しています。また、取締役会は当社の環境課題への対応方針および実行計画等についての論議・監督を実施し、その決定事項は各部門の担当執行役員で構成される業務執行会議へ指示・報告することで、環境課題への審議・決議内容の全社的な経営戦略への統合を図っています。



### 戦略

気候変動によるリスクと機会の特定、事業への影響度と対応策について考察・分析にあたっては、産業革命期頃の世界平均気温と比較して2100年頃までに4℃上昇とする4℃シナリオと、カーボンニュートラルへの取り組みにより1.5℃~2℃程度に気温上昇が抑制される2℃未満シナリオの2つのシナリオを設定し、それぞれの世界観における2030年時点での当社への影響を想定して実施しました。

4℃シナリオにおいては化石燃料需要の成行き的な拡大などを背景に施工原材料価格の上昇を予測してのほか、気象災害の激甚化に伴う物理的リスクが拡大することによる直接的な被害が想定されます。しかしながら、気象災害による被害を防止・抑制するための減災・防災工事需要の拡大も見込まれ、各事業における社会貢献の可能性についても模索・検討しています。対して、2℃未満シナリオでは炭素税の導入やエネルギー需給バランスの変化から操業コストの増加や仕入れコストの増加が想定される一方、再生エネ需要の拡大を背景に再生エネ関連工事が増加することが見込まれ、積極的な関連工事への参画による事業機会を確認しています。そのほか、双方のシナリオ共に熱中症リスクをはじめとする慢性的な気温上昇による労働効率の低下は双方のシナリオ共に同程度の影響を予想しています。

項目	2030年における影響				対応策	
	要因と事象		4℃ シナリオ	2℃ シナリオ		
<b>脱炭素化社会への移行による影響</b>  【参考シナリオ】 IPCC RCP1.9~2.6 IEA NZE2050	リスク	カーボン プライシング	炭素税の導入による事業運営コストの増加 温室効果ガス排出量削減に伴う支出の増加	小	大	・営業拠点でFCV、現場でEVを導入 ・作業所へのグリーン電力導入 ・作業船燃料のGTL燃料化、作業船の省エネ化 ・浚渫土固化処理における炭素貯留 ・ブルーカーボン
		資材価格の 変動	石油需要の変化や炭素税の導入による 原材料価格の高騰	中	大	・グリーン調達 ・建設廃棄物のリサイクル率向上
	機会	再生可能 エネルギーの ニーズ拡大	再生可能エネルギー発電工場の増加	中	大	・洋上風力発電分野への注力 ・太陽光、陸上風力、バイオマス、小水力は経験豊富 ・エネルギーミックスを踏まえた注力分野選択
<b>地球温暖化に伴う物理的影響</b>  【参考シナリオ】 IPCC RCP6.0 IEA STEPS	リスク	気象パターンの 変化	熱中症危険の増大と屋外作業効率の低下 極端な気象パターン変容による工事への影響	大	中	・ICT技術による生産性向上 ・現場支援体制の強化による省力化・生産性向上 (BIM/CIM対応強化) ・建設現場の就労環境改善に向けた革新的な技術開発
		気象災害の 激甚化 (洪水・高潮)	自社拠点の被災による損害および 損失の発生 サプライヤーの被災による原材料供給の 停止 台風や豪雨・豪雪による工期の遅れや 対応コストの発生	大	中	・安否確認システムの運用 (災害時BCP対応力の強化) ・防災・消防訓練の継続
	機会	国土強靱化	防災・減災を目的とした国土強靱化への 貢献 気象災害等による災害復旧への貢献	中	中	・防災・減災事業 (防潮堤や堤防の強化) ・インフラ建設や維持修繕に対する営業強化 ・災害復旧支援

これら分析結果に対する現在の取り組み状況として、リスクの回避および緩和についての取り組みでは、事業運営上の環境性能向上に向けたICT施工によるCO<sub>2</sub>排出削減や作業所のグリーン電力導入の推進のほか、ICT技術の導入による就労環境改善および生産性向上、浚渫土固化処理における炭素貯留についての研究、ブルーカーボン生態系の活用に向けた取り組みなどを実施しています。また、機会獲得に向けては洋上風力発電を含む再生可能エネルギー分野へ注力しており、グリーン電力の普及に向けた取り組みに貢献しています。

今後は国内・国外共にエネルギーミックスを踏まえた注力分野の選択や、建設現場の就労環境改善に向けた技術開発、災害時のBCP対応力の強化をはじめとし、これらの分析を踏まえた具体的な対応策を各事業で検討・立案し、不確実な将来世界のあらゆる可能性に備えるとともに、今後も様々な動向を踏まえて分析を定期的に行い、評価の見直しと情報開示の質・量の充実に努めています。

## リスク管理

気候変動リスクについてはサステナビリティ委員会に報告され、各サステナビリティ課題と統合して重要度の評価を行っています。また、特定した気候変動リスクについては、必要に応じて危機管理委員会にも共有され、危機管理委員会がその他リスクも含め統合的に管理を行っています。特定および評価した各種リスクについてはリスク管理担当部署を置き、リスク管理規定に基づいてリスクが顕在化することを防止するとともに、リスクの軽減を図っています。

## 指標と目標

当社は、「施工段階におけるCO<sub>2</sub>排出量を指標として、2030年度までに2013年度比40%削減」という目標に向けて取り組みを推進しています。また、持続可能な国際社会への貢献努力として、再生可能エネルギー関連施設の建設工事への積極的な参画により、年間発電量総計100億kWh(出力100万kW級の原子力発電1基相当)分の施工実績を目指します。

TCFD提言による情報開示 (ホームページにリンクします) ▶





# 環境データ

～数字で見る環境保全活動～

## 環境目標

「建設業の環境自主行動計画 第7版」（一般社団法人 日本建設業連合会）が掲げる目標の達成に向け活動しています。

当社の目標及び実績			
	工種	2030年度目標	2021年度実績
施工段階におけるCO <sub>2</sub> の排出抑制	海上土木工事	77.6t-CO <sub>2</sub> /億円 以下	124.5t-CO <sub>2</sub> /億円
	陸上土木工事	37.9t-CO <sub>2</sub> /億円 以下	61.5t-CO <sub>2</sub> /億円
	建築工事	6.8t-CO <sub>2</sub> /億円 以下	18.9t-CO <sub>2</sub> /億円
建設副産物対策	建設汚泥の再資源化等率	2024年度までに95%以上	95%
	建設発生土の有効利用率	2024年度までに80%以上	88%

建設業の環境自主行動計画 第7版	
施工段階におけるCO <sub>2</sub> の排出抑制	2050年までに実質0（ゼロ）
	2030～40年度のできるだけ早い段階で2013年度比で40%削減（施工高当たりの元単位t-CO <sub>2</sub> /億円）
建設副産物対策	2024年度までに建設汚泥の再資源化等率を95%以上
	2024年度までに建設発生土の有効利用率を80%以上

※ 施工段階でのCO<sub>2</sub>排出量に関する当社の目標は、これまでの実績により3工種に区分して設定しています。  
 ※ 建設汚泥再資源化等率：建設汚泥（発生木材）場外搬出量の内、売却や他工事利用を含めた再資源化量の割合  
 ※ 建設発生土の有効利用率：工事で盛土等に使用した土量の内、他工事から搬入した発生土量と当該工事の掘削土等を転用した土量の割合

## 環境会計

環境会計は、「建設業における環境会計ガイドライン 2002年度版」（日建連）および「環境会計ガイドライン 2005年版」（環境省）に準拠して算定しました。

環境保全活動の、経営との関連性や有効性を明確にし、機能の強化をめざしています。

**対象範囲**：国内事業所のみとし、関係会社は含みません。

**対象期間**：2021年4月1日～2022年3月31日

**集計方法**：環境保全コストは、16工事をサンプリング抽出し、完成工事高により全社換算しました。サンプル抽出した工事は、完成工事高全体の15%に相当します。なお、サンプリングの対象は、単独および当社が幹事会社である共同企業体工事です。

## 環境保全コスト

分類	内 訳	費用(百万円)					
		2017年度	2018年度	2019年度	2020年度	2021年度	
事業エリア内コスト	公害防止コスト	水質汚濁防止、騒音・振動防止	1,953	1,748	1,951	2,021	2,422
	資源循環コスト	産業廃棄物・一般廃棄物の処理・処分	825	966	718	1,667	1,070
		小計	2,778	2,714	2,668	3,706	3,492
上下流コスト	環境配慮設計	4	4	4	4	4	
管理活動コスト	監視・測定、環境教育や事業所周辺の緑化・美化などの環境改善対策	21	27	24	24	42	
研究開発コスト	環境保全に関する研究開発	32	29	33	50	20	
社会活動コスト	工事のイメージアップや地域の緑化・美化などの環境改善対策	1	53	58	4	22	
環境損傷対応コスト	環境リスクの対応費や環境損傷の保険料など	18	22	24	32	22	
計		2,854	2,849	2,811	3,820	3,602	

## 環境保全効果

分類	項目	2017年度	2018年度	2019年度	2020年度	2021年度
事業エリア内効果	建設廃棄物リサイクル量	151,798t	50,721t	72,670t	106,202t	93,708t
	工事による温室効果ガス排出量	57,669t-CO <sub>2</sub>	39,775t-CO <sub>2</sub>	32,040t-CO <sub>2</sub>	47,207t-CO <sub>2</sub>	65,779t-CO <sub>2</sub>
	オフィスの温室効果ガス排出量	1,110t-CO <sub>2</sub>	911t-CO <sub>2</sub>	911t-CO <sub>2</sub>	799t-CO <sub>2</sub>	809t-CO <sub>2</sub>
上下流コスト	再生砕石	180,734t	49,844t	271,079t	47,073t	104,749t
	再生アスファルトコンクリート	33,212t	3,403t	32,626t	6,229t	14,936t
	グリーン購入(事務用品など)	25,504千円	26,110千円	27,014千円	26,468千円	23,307千円

## マテリアルフロー

主要建設資材	
セメント	2,594t
生コンクリート	127,920m <sup>3</sup>
アスファルトコンクリート	40,454t
鉄鋼製品	14,181t
砕石	473,817t

主要再生資材	
再生アスファルトコンクリート	14,936t
再生砕石	104,749t

オフィスでの投入エネルギー	
電力	118万kwh
ガソリン	113kℓ
灯油	11.8kℓ

施工での投入エネルギー	
電力	137万kwh
軽油	8,890kℓ
A重油	15,125kℓ
灯油	90.8kℓ

### INPUT



### OUTPUT

建設副産物排出量	
コンクリート塊	47,281t
アスファルトコンクリート塊	21,771t
建設発生木材	3,628t
指定副産物以外廃棄物	21,399t
建設汚泥	27,983t

再資源化量	
コンクリート塊	47,235t
アスファルトコンクリート塊	21,754
建設発生木材	3,628t
指定副産物以外廃棄物	21,091t
建設汚泥	26,678t

CO <sub>2</sub> 排出量	
工事	65,779t-CO <sub>2</sub>
オフィス	809t-CO <sub>2</sub>

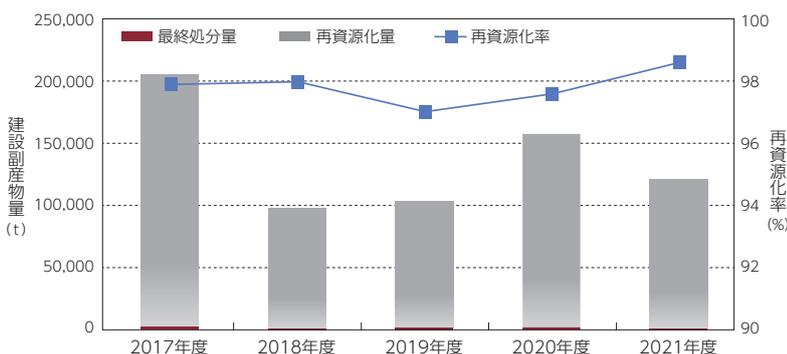
※指定副産物  
建設リサイクル法で再資源化が義務づけられている、コンクリート塊、アスファルトコンクリート塊および建設発生木材

最終処分量	
建設廃棄物	1,675t

## 建設副産物の再資源化量と再資源化率

※建設発生土を除く

	2017年度	2018年度	2019年度	2020年度	2021年度
総排出量	209,564t	98,918t	103,027t	160,417t	122,061t
再資源化量	205,063t	96,921t	99,948t	156,585t	120,386t
最終処分量	4,501t	1,997t	3,079t	3,832t	1,675t
再資源化率	97.9%	98.0%	97.0%	97.6%	98.6%



## Scope 1~3におけるCO<sub>2</sub>排出量

2021年度	
Scope 1	65,470t-CO <sub>2</sub>
Scope 2	1,119t-CO <sub>2</sub>
Scope 1+2	66,589t-CO <sub>2</sub>
Scope 3	850,250t-CO <sub>2</sub>

# 社会貢献活動

「CO<sub>2</sub>削減をはじめとする環境改善への取り組みや防災活動など地域社会との交流を推進し、社会貢献に努める」ことを社長方針のひとつに掲げています。地域社会とのコミュニケーションは工事施工を円滑に進めるうえでも大切であると認識し、全国各地でさまざまな活動に積極的に取り組んでいます。



1 東北支店



3 東京支店



4 東京支店



2 技術研究所

宮城県 1

## みやぎスマイルポート・プログラム

宮城県がボランティア活動に意欲を持つ団体を「スマイルサポーター」に認定し、港湾や海岸を定期的に清掃や美化活動を行う制度です。当社は長年にわたり、東北支店が登録し、活動を行っています。

千葉県 2

## 袖ヶ浦市臨海地区清掃活動

技術研究所では、袖ヶ浦市臨海地区の散乱ごみ問題への対応として、周辺各社と協力の上、地域清掃ボランティアを行いました。当社技術研究所では年に数回、地域清掃活動を実施しています。

東京都 3

## 多摩川・大栗川河川敷の鮎(稚魚)の放流

多摩川の護岸工事完了後、地元の小学校の子供たちと多摩川漁業協同組合の方々とともに、河川敷から、鮎(稚魚)の放流を実施しました。多摩川・大栗川の自然環境をより豊かにすることで、地域にお住いの皆様に対して河川整備工事の重要性や、より良い水辺環境への理解を深めて頂く機会となりました。

東京都 4

## 本木自然地荒川水辺サポーター活動

荒川下流部は、年間1,500万人が訪れる憩いの場であるとともに、ヨシ原や干潟などもあり、動植物の貴重な生息環境となっています。しかし、外来種の繁茂や漂着ゴミの堆積などの問題にも直面しており、当社を含む一般公募の活動団体の方と、地元自治体と、荒川下流河川事務所の3者が連携して維持管理活動を毎年行っています。





5 大阪支店



6 九州支店



7 九州支店

大阪府 5

## 大阪マラソン・びわ湖毎日マラソン 統合大会”クリーンUP”作戦

毎年継続的に続けている清掃ボランティアであり、「きれいなまち大阪」を目指す趣旨から、大阪市全域の団体・個人が参加している活動です。今年度は大阪マラソンとびわ湖マラソンを統合して開催することから名称も変わっています。大阪支店は毎年参加しており、会社周辺の清掃活動をおこなっています。

福岡県 6

## 青い羽根募金活動 感謝状

日本水難救済会長より、「青い羽根募金活動」において、多大な尽力をし、海上の安全確保に大きく寄与したとして、感謝状を頂きました。

「青い羽根募金」とは、海で遭難した人々の救助活動にあたるボランティア救助員を支援するための募金です。

福岡県 7

## 和白干潟アオサ清掃活動

アオサは鳥の餌や、生きもののすみかになっている海藻ですが、大量に発生するとアサリ等の干潟の生きものはすみにくくなります。また岸近くに積ると腐って嫌な臭いの原因にもなります。和白干潟を守る為、アオサ清掃活動に参加しました。

## 漂流する軽石との戦いが始まる

2021年10月末、沖縄本島周辺に大量の軽石が漂着しました。10月28日夕方、内閣府沖縄総合事務局（以下、沖総局）より、久高島の定期船が軽石の漂着により欠航しているため、軽石除去に向かうよう突然の要請を受けました。

現地の状況も全くわからない中、当社が施工中の中城湾港浚渫工事（沖総局発注）で汚濁防止膜設置に使用していた起重機船に、取り急ぎ平バケット、オイルフェンス等を準備し、翌早朝から久高島に向かいました。ここから軽石との戦いの日々が始まります。

3時間かけて久高島に到着し、軽石を発見し作業船を接近させるも、航跡波で乱れて分散し、波浪で流れていくなど、いきなり困難に直面しました。幾度か試みるうち引船のストレーナーが詰まり始め、危険と判断し初日の戦いは終わりました。翌日以降も、バックホウ台船やサンドポンプなどでも回収を試みましたが、洋上での軽石の回収は、困難と危険を伴う作業でした。そこで、回収方法について実証実験を行うこととなりました。

## 外洋での回収は困難、港の啓開を行う

回収方法は、回収器具も含め一般社団法人日本埋立浚協会の

九州支部（以下、埋浚）各社からアイデアを集め、試作品を数種類製作し、本部港で実証実験を行いました。その中で最も回収効率の良かった器具を大型化することとなりました。

当時、本島北部には大量の軽石が漂着しており、その中でも重要港湾である運天港で伊是名、伊平屋の定期航路がしばしば欠航していました。そのため、新たな回収場所として、運天港区域の早期啓開と回収実証実験を行うことが決まりました。

運天港区域の一部である羽地内海は、本部半島と屋我地島に囲まれており、一度流入した大量の軽石が閉じ込められた状態になっていました。また、運天港と羽地内海はワルミ海峡で繋がっているため、干満等により軽石が大量に行き来しており、回収作業と並行してまずは、軽石の移動を止める必要がありました。

回収場所の決定を受け、大至急、作業船の手配、大型回収器具の製作、作業所の設営、地元関係者との調整、作業方法の周知等を行い、12月上旬から運天港に乗り込みました。

海上からの作業船による回収は沖総局が、水深が浅く作業船が近づけない陸地からの回収は、港湾管理者である沖縄県が行いました。



## 軽石回収2つの方法

### ①引船で回収器具を曳き、フェリーバージに集める方法



回収器具の構造



ストレーナーを2系統に改造した引船で回収器具を曳き、



軽石が回収口から回収され、背後に取り付けた回収網に集積される。

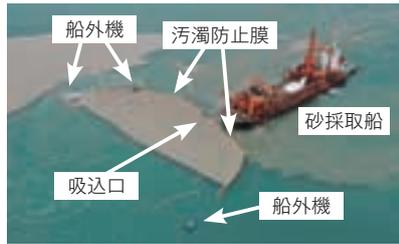


軽石を集積した回収器具を揚収器具を用いて吊り上げ、



回収器具の排出口を開き、フェリーバージ上に排出する。（上記2~4を繰り返し回収する）

## ② オイルフェンス (船外機と汚濁防止膜) で漂流している軽石を誘導し、砂採取船で吸い込む方法



軽石回収状況



1 サンドポンプの先端に軽石を効率よく回収するため、吸込口を改造し、



2 船外機と汚濁防止膜で軽石を吸込口に誘導し、吸込口の高さを調整しながら、



3 サンドポンプで回収する。



4 ポンプで吸い上げた軽石は、砂採取船の船倉に集積され、



5 満船になる前に、適宜フェリーバージへ積み替える。

## およそ7ヶ月で概ねの漂流している軽石の回収が完了

運天港の早期啓開については、羽地内海に閉じ込められた軽石の運天港へ流入を止めるため、ワルミ海峡を閉じる形で汚濁防止膜(長さ:400m)を設置しました。しかし、ワルミ海峡は羽地内海へ通じる唯一の航路であったため、汚濁防止膜には開閉部を設け、軽石の影響がない時に限り、作業船での開閉管理を行いました。さらに、設置当初は一般航行船舶の進入による事故も想定されたため、24時間体制の監視を行うなど、回収完了まで休みなく管理しました。

海上からの回収は、早朝から車で移動しながらドローンや徒歩で追跡し、関係者へ軽石の漂流場所や漂流方向を伝え、南北約2km、東西約6kmの羽地内海を縦横無尽に移動する軽石を追いかけ続けました。

2月中旬、ほとんどの軽石を囲い込み、海上からの回収は一旦終了となりました。しかし、3月中旬、荒天により汚濁防止膜が破断、軽石が再び漂流し、砂採取船等による回収を再開することとなりました。

羽地内海の全体の軽石量が減少するにつれ、漂流量も減少し、作業船の待機日数も多くなってきたことから、5月中旬、海上からの回収は終了し、6月9日、国による管理も終わりを迎えました。



回収作業終了後の羽地内海



回収した軽石は中城湾港までフェリーバージで海上運搬

当初は、回収技術の実証実験ということで2~3ヵ月程度の回収を想定していましたが、運天港啓開のため全てを回収する災害復旧へと方針変更になり、約7ヵ月を要しました。

この間、軽石は日々表情を変え、私たちに自然の力を見せつけてくるようで、それに負けないよう戦い続けた日々でした。

軽石回収において、発注関係者様をはじめ、ご指導、ご協力いただいた海上保安部、関係官公庁、地元漁協関係者、地元関係業者の皆様、共に回収作業を行った協力業者の皆様様に厚くお礼申し上げます。

### ① 回収器具による回収

回収期間	2021.12.6~2022.1.29
回収量	3,370m <sup>3</sup>
最大回収量	65m <sup>3</sup> (1日あたり)
最大回収量	305m <sup>3</sup> (1日あたり)

### ② 砂採取船による回収

回収期間(1)	2021.12.6~2022.2.9
回収期間(2)	2022.3.20~2022.5.12
回収量	13,860m <sup>3</sup>
最大回収量	932m <sup>3</sup> (1日あたり)

### ③ その他の回収 (E-min、漁網、シルプロ)

回収量	427m <sup>3</sup>
合計回収量	17,657m <sup>3</sup>



わっくんジェットの離陸

### ＞ わっくんジェットの就航

当社は、株式会社スターフライヤーが保有する航空機11機のうち、1機にマスコットキャラクター「わっくん」を機体広告として掲出し、昨年12月から今年4月まで国内線6路線、国内7空港（羽田空港、中部国際空港、関西空港、宇部空港、北九州空港、福岡空港、那覇空港）で運航されました。

株式会社スターフライヤーは、当社発祥の地である北九州を拠点としており、地元への貢献と感謝の気持ち込め、機体広告を決めました。



機体広告

### ＞ 2022クロスカントリー日本選手権に協賛

クロスカントリーは、草原地や丘陵など整地されていないコースで行う陸上競技の中長距離競走です。当社は、今年2月に福岡市東区の国営海の中道海浜公園で開催された、クロスカントリーの国内トップを決める日本選手権に協賛しました。

中期経営計画（2021年度-2023年度）で掲げた、ESG経営の推進における地域貢献活動の一環としての取り組みです。



コース内看板

### ＞ WWFジャパンの法人会員

WWFは100カ国以上で活動している環境保全団体で、1961年にスイスで設立されました。人と自然が調和して生きられる未来をめざして、サステナブルな社会の実現を推し進めています。特に、失われつつある生物多様性の豊かさの回復や、地球温暖化防止のための脱炭素社会の実現に向けた活動を行なっています。

当社は、2022年1月より、WWFジャパンの法人会員として、WWFの環境保全活動を応援しています。



WWFジャパン法人会員盾



東京工業大学名誉教授  
神戸大学名誉教授  
若築建設(株)社外取締役

## 朝倉 康夫

## WAKACHIKU

若築建設のイメージを一言で言えば、「高度な技術力に裏打ちされた誠実な建設会社」ということになるのではないかと思います。

私は、1975(昭和50)年に京都大学の土木工学科に入学し、以降、学部、修士課程を修了して、1981年に京都大学の助手に就任した。その後、愛媛大学、神戸大学、東京工業大学と渡り歩いて研究と教育に従事し、2022年3月末に東工大を定年で退職した。ご縁があつて、若築建設の社外取締役に就任したのは2016年6月で、それ以降、取締役会や技術報告会等を通じて会社の活動を拝見してきた。

北九州の本社に併設された「わかちく史料館」では、1890(明治23)年の創業以降の会社の歩みを見ることができるが、海洋土木分野を中心に我が国の発展を支えてきた歴史と社会的役割の大きさを知ることができる。その伝統は、現在の会社の活動にも生かされており、技術力向上に努力を惜みせず、誠実に仕事を進めるといふ社風を感じることができる。

社内の技術報告会では、中堅・若手の技術者が各支店から集まって、最新の現場事例や技術開発事例の報告をされるが、その水準は十分に高く、わかりやすい説明には感心する。私が専門とするのは土木工学の中でも交通工学ですが、自然条件や社会的条件の厳しい現場に最も適切な高度な技術を適用されていることは理解できる。発表される方々の熱意と誠実さを感じるの言うまでもないが、報告を聞かれて質問される役員等の方々と発表される社員の方とのやりとりにも会社の社風が反映されているように思われる。一般社員と役員との関係が対等で相互に信頼感を持っておられるから、社員も臆せず発言できるし、役員にも正確に現場の声が届くのではないだろうか。組織の構成員の関係がフラットでお互いにリスペクトしている環境は、近くで見ている気持ちが良いだけでなく、組織として信頼できる。

若築建設は、若手の人材育成や大学等での研究

開発にも貢献されている。たとえば、全国の工業高等専門学校の学生に奨学金を給付されているが、高専学生が経済的な懸念なしに学業に専念できる環境づくりに企業が貢献されることは社会的な意義が極めて大きいといえる。一方、大学等との共同研究も実施されており、会社にとっては大学の先端的な研究成果を活用でき、大学にとっては実務側の社会的要請を研究に反映できるというメリットがある。大学にとっては貴重な研究資金が得られるため、とくに外部資金の獲得に苦勞されている地方の優秀な研究者との共同研究を会社が継続的に実施されることは社会的な意義も大きい。

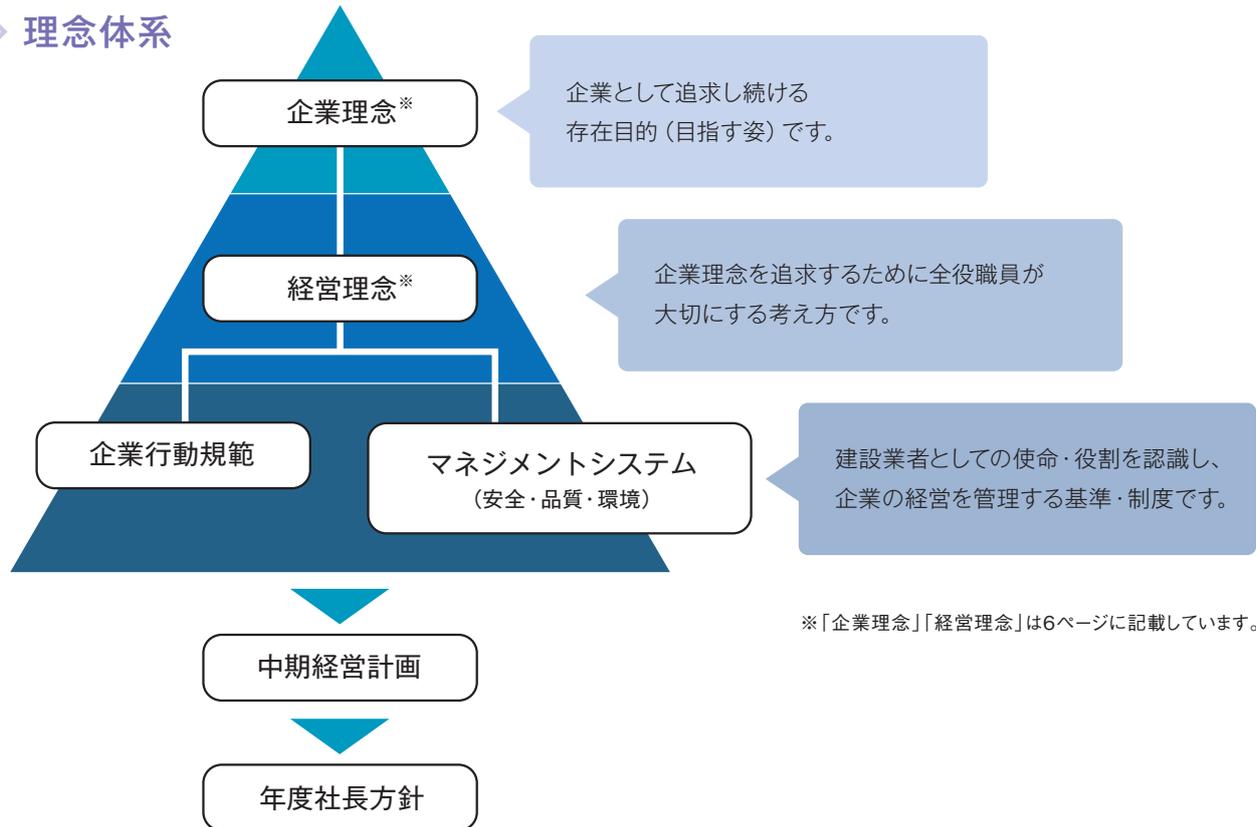
若築建設が得意としてきた海洋土木分野の重要性は今後も変わらないと思われるが、得意分野の周辺の領域に今後の成長分野があるようにも思われる。その一つは、洋上風力発電等のエネルギー分野のインフラ整備である。既に会社の中にも専門部署を立ち上げて検討が進められているが、世界の動向にアンテナを張るとともに我が国の状況に適合した独創的な技術開発と実装に期待したい。洋上風力や太陽光に限らず、自然由来の再生可能エネルギーの生成は時間や季節の変動が大きく、その変動を緩和・吸収するインフラ設備も重要である。たとえば、エネルギーの地産地消のために、余剰電力を位置エネルギーに変えて蓄えるコンパクトな揚水施設を効率的に整備する技術なども開発されてよい。また、我が国の高度成長期に集中的に整備された社会インフラが更新期を迎えており、高速道路の大規模更新に代表される多くの事業が実施されている。今後もインフラの更新事業は継続すると見込まれるが、いずれの事業も使いながら取り換えるという難題を抱えている。安全かつ効率的に事業を実施するための技術的工夫が求められており、これは大きなビジネスチャンスであるともいえる。若築建設がこれまでに培ってこられた技術と人材を生かし、新規分野に挑戦を続けられることに期待したい。

## 経営方針

当社は、恒久的な「企業理念」、「経営理念」のもと、経営の透明性・効率性を向上させ、持続的な企業価値の向上を図ることを基本方針として、株主をはじめとする全てのステークホルダーとの円滑な関係構築を実現するため、迅速かつ効率的な経営・執行体制の確立を図り、透明性の高い経営の実現に取り組んでいます。

創業以来、その時代の求める社会のニーズに応え、社会の発展と国民生活の向上に寄与すべく企業活動を行ってきました。これからも私達は、建設業者としての社会的使命・役割を果たしていきます。

### 理念体系



### 企業行動規範

#### 第1 建設業者としての社会的使命・役割の遂行

1. 健全な企業体質の確立
2. 顧客の満足と信頼の獲得
3. 品質の確保と建設技術の向上
4. 適正な協力関係の構築
5. 公衆災害防止の徹底
6. 自然災害への対応

#### 第2 公正で誠実な企業活動の実践

1. 公正な営業活動の実施
2. 適正な生産体制の構築
3. 反社会的勢力の排除
4. 知的財産権等の保護
5. 適正な財務処理等の実行
6. 政治・行政との適正な関係の保持

#### 第3 人を大切にする企業の実現

1. 魅力ある労働環境の創出
2. 安全衛生対策の強化・充実
3. 差別や不当な取り扱いの禁止
4. 多様な個性や能力を尊重した人事処遇、人材育成の推進

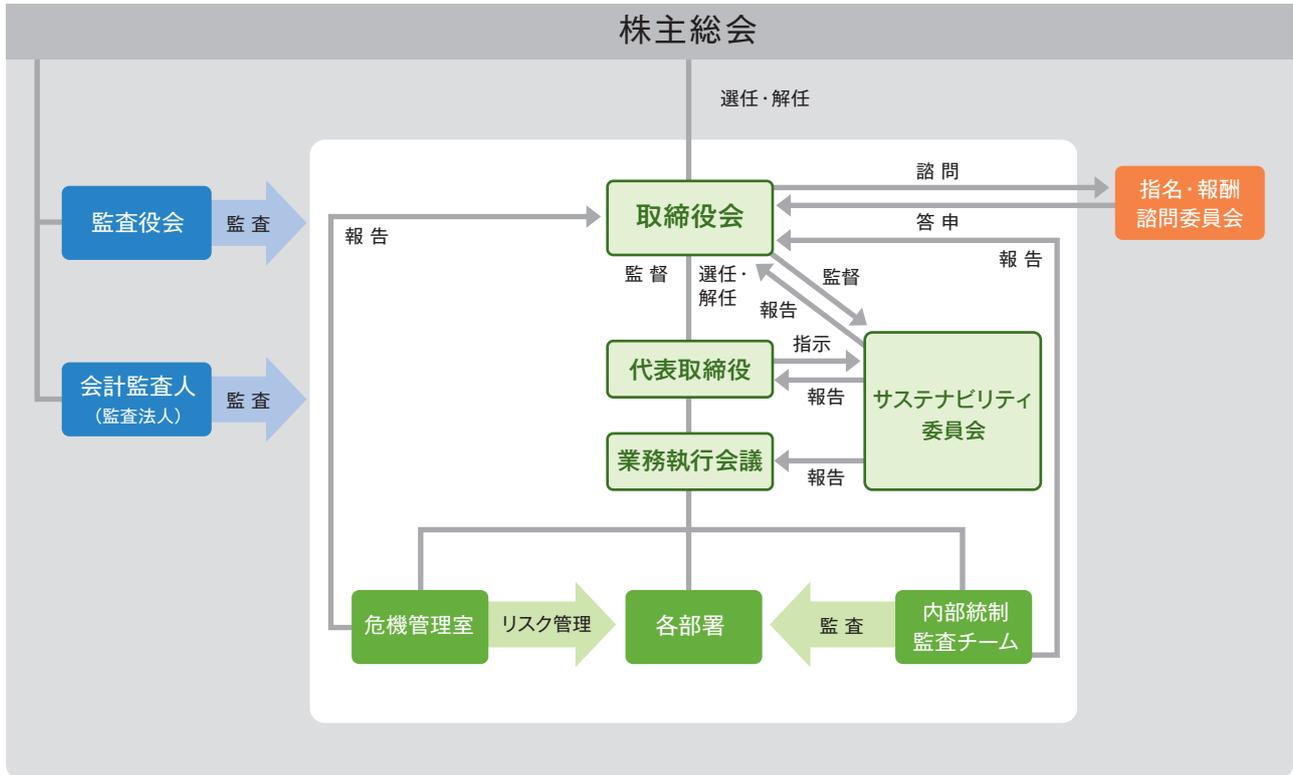
#### 第4 社会との共生

1. 社会との広範なコミュニケーションの実施
2. 社会貢献活動の積極的な展開
3. 環境保全等への取り組み
4. 国際活動における各国・地域への貢献

## コーポレート・ガバナンス体制

当社は、経営責任と執行責任を明確にした経営体制を確立し、経営の透明性を高めるとともに、実効性のある内部統制システムの構築・強化および法令遵守体制の確立に努めています。

金融商品取引法をはじめとする関係諸法令および証券取引所の諸規則を遵守し、重要な会社情報を正確かつ公平に開示するための社内体制の充実に努めています。



## 内部統制

### 内部統制システム

業務の執行が適正かつ健全に行われるため、実効性のある内部統制システムの維持・更新と法令遵守体制の維持に努めています。

社会の秩序や安全に脅威を与える反社会的勢力とは、取引関係その他一切の関係を遮断するため、不当要求等については外部機関と連携し、毅然とした態度で適切かつ組織的に対応します。

損失の危険の管理に関しては、危機管理委員会を設置するとともに、リスク管理および法令遵守の徹底の担当部署を置き、リスク管理規程に基づいてリスクが顕在化することを防止するとともに、リスクの軽減を図ります。また、大規模自然災害に備え、社員の安全確保・事業活動の継続・社会貢献を基本方針として防災規程に基づき対策の強化・推進をはかっています。

### 内部統制監査

財務報告の信頼性を確保し、会社の健全性を維持するために、総合システム部を中心とした内部統制監査チームによる内部統制監査を実施することで、内部統制の有効性を継続的に監視し、評価・改善をはかっています。また、監査を通じて、業務効率の課題や問題点を洗い出し、プロセスオーナー（本社各部）との協議を行い、ICT活用などで効率の改善を図っています。

### 内部通報制度

当社では、全ての役職員が、法令、社内規程、社会倫理その他の規範を遵守することが求められています。

それらを遵守していない事象を発見した場合やコンプライアンスに関連する事象、パワハラをはじめハラスメントなどで悩んでいる場合に、社内に設置する通報窓口のほかに、社外にも通報窓口（弁護士事務所）を設置しており、気軽に相談できる仕組みを構築しています。

## コンプライアンス体制

当社グループの役職員は、建設業に携わる者としての社会的使命・役割を強く認識するとともに、独占禁止法等、建設業法などの法令を遵守し、一人ひとりが常に高い倫理観を保持して、信頼される会社であり続けるよう、企業行動規範に基づいた企業行動の実践に努めています。

当社におけるコンプライアンスの取組みについては、危機管理室が主幹部署として推進しています。  
危機管理室長をコンプライアンス推進責任者とし、

- (1)コンプライアンスに関する規程の起案および企画立案
- (2)コンプライアンスに関する規程の施行に当たり必要となるガイドライン、マニュアル等の通知等の立案
- (3)コンプライアンス教育の計画立案、進捗管理および見直しならびに サステナビリティ委員会への報告
- (4)コンプライアンス推進に当たっての関連部門および役職員等への指導ならびに助言

を行っています。

## サステナビリティ委員会

### 設置の目的

2021年のCGコード改訂において「サステナビリティを巡る課題への取り組み」についての開示が追加されました。当社が位置する「プライム市場」には、TCFD（気候関連財務情報開示タスクフォース）等の枠組みに準じた気候変動についての開示も求められています。

当社では、社長を委員長とする「サステナビリティ委員会」を設置し、気候変動にとどまらず、健康経営やワークライフバランス、人権宣言対応などもターゲットとした幅広い活動を推進しています。

### サステナビリティ委員会の役割

## サステナビリティ委員会

環境部会/ソーシャル部会/ガバナンス部会

サステナビリティ委員会では、会社の持続可能性の観点から、環境問題と社会的課題についての課題整理、施策の立案・実施および進捗管理を行います。

### サステナビリティ委員会の運営

委員会下部組織として3つの専門部会（環境部会、ソーシャル部会、ガバナンス部会）を設置し、それぞれ下表の課題に対応しています。

環境部会	ソーシャル部会	ガバナンス部会
<ul style="list-style-type: none"><li>● 気候変動によるリスクと機会の分析、評価</li><li>● カーボンニュートラルへの対応</li></ul>	<ul style="list-style-type: none"><li>● ワークライフバランス</li><li>● ダイバーシティの推進</li><li>● 健康経営</li></ul>	<ul style="list-style-type: none"><li>● コンプライアンス</li><li>● ハラスメント防止</li><li>● 人権宣言対応</li></ul>



若築建設企業イメージCM「風が運ぶ夢」

動画はこちら ▶

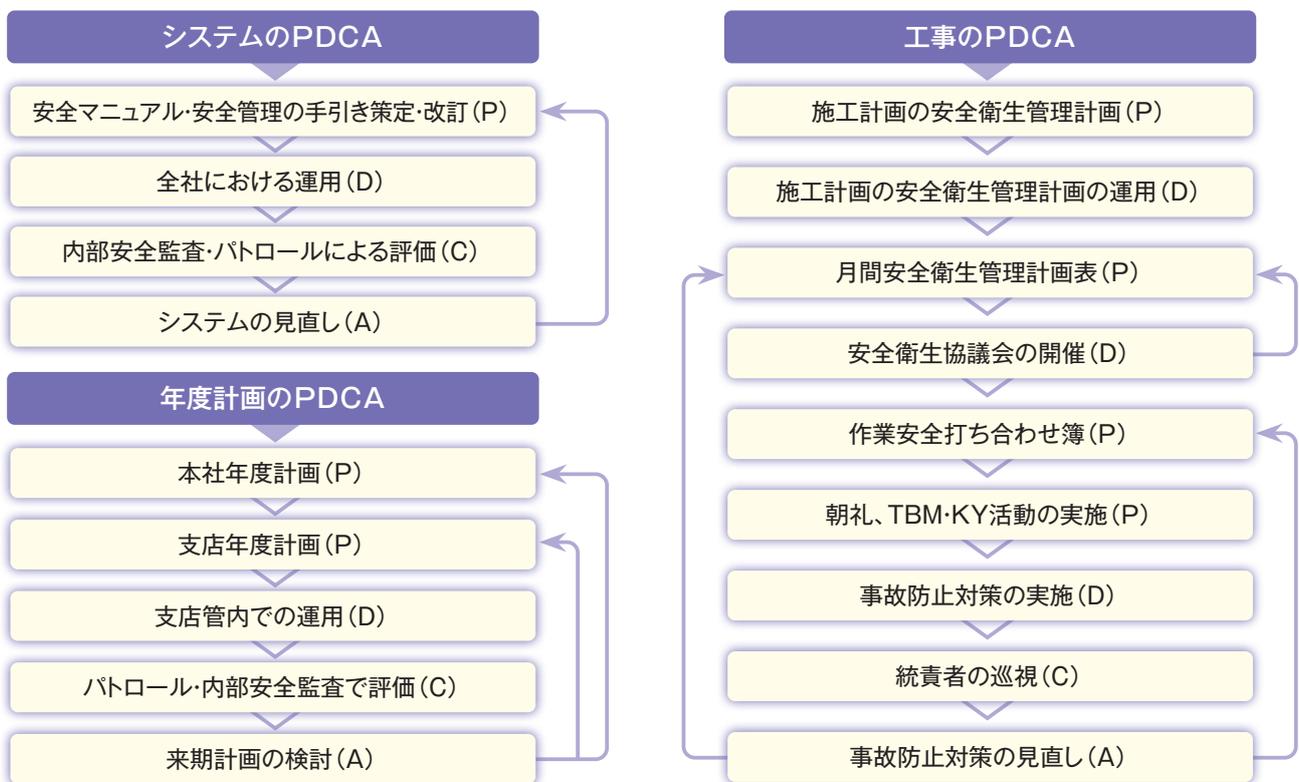


## 安全衛生基本方針

若築建設は、「人命尊重」の基本理念や「安全は企業活動の根幹である」のモットーのもと、「工事現場に従事する当社及び協力会社の社員の労働に関する負傷及び疾病を防止すること」及び「安全で健康的な職場と活動を提供すること」を確実にするために、次の事項を実践し、労働安全衛生マネジメントシステムを確立し、継続的な改善により維持し、工事現場における労働災害絶滅への取組みを進めていきます。

## 効果あるリスクアセスメントを実践する

### 継続的改善に繋げる安全施工サイクル(PDCA)



### 労働安全衛生マネジメントシステム

安全衛生基本方針に基づき、当社および協力会社の社員とその家族の皆さまに安心していただけるよう、安全で快適な職場づくりにつとめています。

当社は、労働安全衛生の国際規格であるISO45001に準拠した労働安全衛生マネジメントシステムを効果的に運用し、労働安全衛生に対する社員および協力会社の意識のさらなる向上をはかり、全社一体となって労働災害絶滅への取組みを進めていきます。

### 危機管理体制の確立

受注した全工事について「危機管理体制」を確立することとしています。具体的には、①全工事の「リスク」の洗い出しと緊急対策の検討、②緊急対策の発注者等との協議、③緊急体制の構築、を行い、④協力会社への周知指導、⑤緊急対策の事前訓練の実施、⑥支店土木部、建築部及び安全環境部との連携による「危機管理パトロール」を実施していきます。

また、「リスク」が公衆等へ及ぼす影響が大きと思われる工事を「公衆災害対応重要工事」として選定し、本社土木部、建築部は安全環境本部と連携して、「危機管理パトロール」を実施していきます。

## リスクアセスメントの実践

労働安全衛生におけるリスクアセスメントとは、作業における危険源を特定し、それによる労働災害の重篤度と災害発生の可能性を考慮してリスクを見積もり、対策の優先度を決め、たうえでリスクの除去または低減の措置を講ずる手法です。

当社は過去に発生した労働災害を繰り返し発生させないことを目指したリスクアセスメントを実践しています。

- ①法令、社内ルールや過去の災害データベースに照らし合わせ、当該工事に潜在する危険源を特定する
- ②特定した危険源に対し、当該工事の現場特性を考慮のうえリスクの大きさを見積もる
- ③リスクの大きさに応じて対策の優先度を決定し、工種ごと、業者ごと、月ごとに関係者で現場の特性に合わせたリスク低減対策を検討し実施する

また、「危険源特定」～「リスク見積もり」～「リスク低減対策の検討」～「実践、記録」の一連の作業に関する「リスクアセスメント支援システム」を構築しており、リスクアセスメントを効率よく効果的に実施しています。

作業種別	作業	危険源の特定	リスクの大きさ	対策
...	...	...	...	...

リスクアセスメント支援システム

## 建設機械災害防止運動

建設機械災害を防止するため「若築3・3・3運動」や「グーパー運動」「誘導なしでバックしない運動」を推進しています。

特に「若築3・3・3運動」はクレーンによる吊り荷地切り時の接触やはさまれ事故などの防止に重点を置いた運動としてすべての作業所に徹底し、災害防止につとめています。



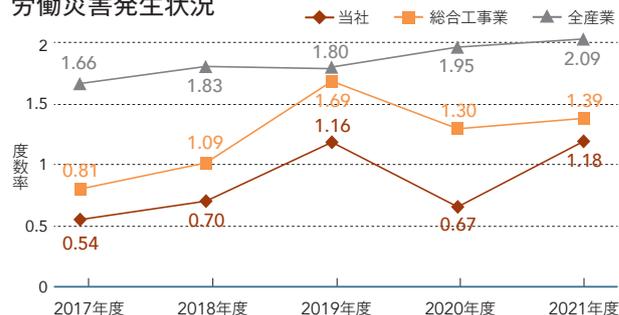
## 労働災害絶滅への取り組み

災害防止重点項目は、長年にわたって蓄積してきた当社の災害統計をもとにして設定しています。

2021年度は『墜落・転落災害』『第三者災害(特に交通事故)』『建設機械に起因する災害』の防止を災害防止重点項目に設定し、安全衛生管理に取り組みました。

今後も、安全衛生基本方針に基づいて、「災害ゼロ」から「危険ゼロ」をめざし、さらに充実した安全衛生管理に取り組んでいきます。

### 労働災害発生状況



## 安全衛生教育

本・支店勤務者を含めた技術系職員を対象に安全衛生教育を実施しています。2022年度は国土交通省における工事事故防止の重点安全対策や当社で過去に類似して発生した事件事例をもとに関連法令等及び防止対策などの講習を行いました。なお、新型コロナウイルスの感染予防対策として1会場当たりの受講人数を制限して受講者間の距離を確保し、消毒や換気にも十分配慮して行いました。



本社での講習

## 安全パトロール

社長、支店長などによる役員パトロール、安全環境部および協力会社との合同パトロールなどを定期的を実施し、労働災害防止の指導と安全意識の高揚をはかっています。



社長現場パトロール



専務現場パトロール

## 本社webパトロール

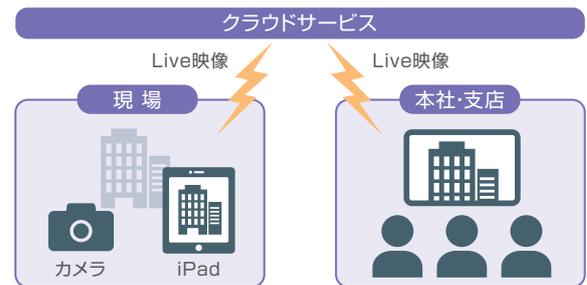
webカメラで施工現場と本社や支店などを繋いで行う遠隔パトロールを実施しました。新型コロナウイルスの感染対策として有効なだけでなく、遠隔地の施工現場を確認する事が可能であり、現地までの移動時間の短縮のほか、本社や支店など複数拠点から参加できるなどの効果が確認できました。



Webカメラによる現場パトロール



本社からパトロールに遠隔参加



## 「あんぜんプロジェクト」への参加

厚生労働省が進めるプロジェクトであり、労働災害のない日本を目指して、働く人の安全確保に積極的に取り組むことを目的としています。また、プロジェクトメンバーの取り組みを広く紹介することで企業価値の向上に繋がることを期待するものです。当社もこのプロジェクトに参加して安全対策に積極的に取り組み、活動状況や災害発生状況を公開しています。



## 災害対策

当社は、地震等の自然災害が発生したときの混乱の防止、被害の軽減を図り、災害復旧活動を迅速に行うことを目的とした「災害対策手順書」を策定し、様々な訓練や対策、防災技術のスキルアップを行っております。

### 基本方針

- 人命の安全確保を最優先する
- 事業活動の維持・継続、早期復旧を図る
- 地域社会の防災活動や被災時の復旧、支援活動に積極的に取り組む

各事業所ごとに「防災責任者」を配置し、防災訓練の実施、防災対策の周知、事業所における防災設備の設置・確認、備蓄品の整備を行っています。

また東海地震警戒宣言発令時などにおいては、社長自らが「災害対策本部」の本部長として「現地(支店)災害対策本部」との連携を取りながら、社員・その家族の安否確認・安全確保、地域との緊密な連携を取りながら災害協定に基づく復旧作業の実施、その他の応急・復旧業務、事業継続(BCP)の体制を確保し、建設業者として最大限の地域貢献を果たしていきます。

## 安否確認システム【エマージェンシーコール】

エマージェンシーコールとは、地震(震度5強以上)・津波警報・特別警報といった自然災害や緊急事態が発生した場合に、社員の連絡先へメール等を自動で一斉配信することで、安否確認等を迅速・効率的に行うシステムです。スマートフォンや携帯電話へのメール、固定電話への着信により、全ての社員の安否を迅速に確認できるシステムで、繰り返しの訓練を経て全ての社員に浸透し、実際の自然災害の際に活用されて効果を上げています。



安否状況連絡



安否状況確認



安否確認後の災害本部訓練

## 防災・消防訓練

当社では災害・火災や、急病者への迅速・適切な対応を行うため、所管消防署のご指導の下、毎年防災・消防訓練を行い、初期消火や救命救急のスキルアップを図っています。また、多くの社員が救命講習を繰り返し受講し、AEDや心肺蘇生などの技術を習得しています。

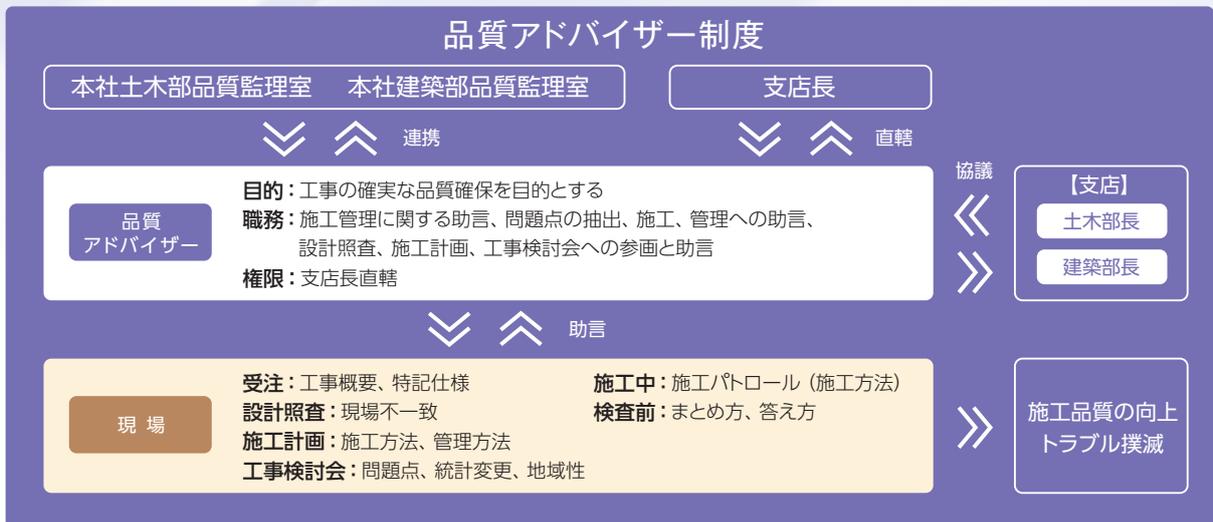
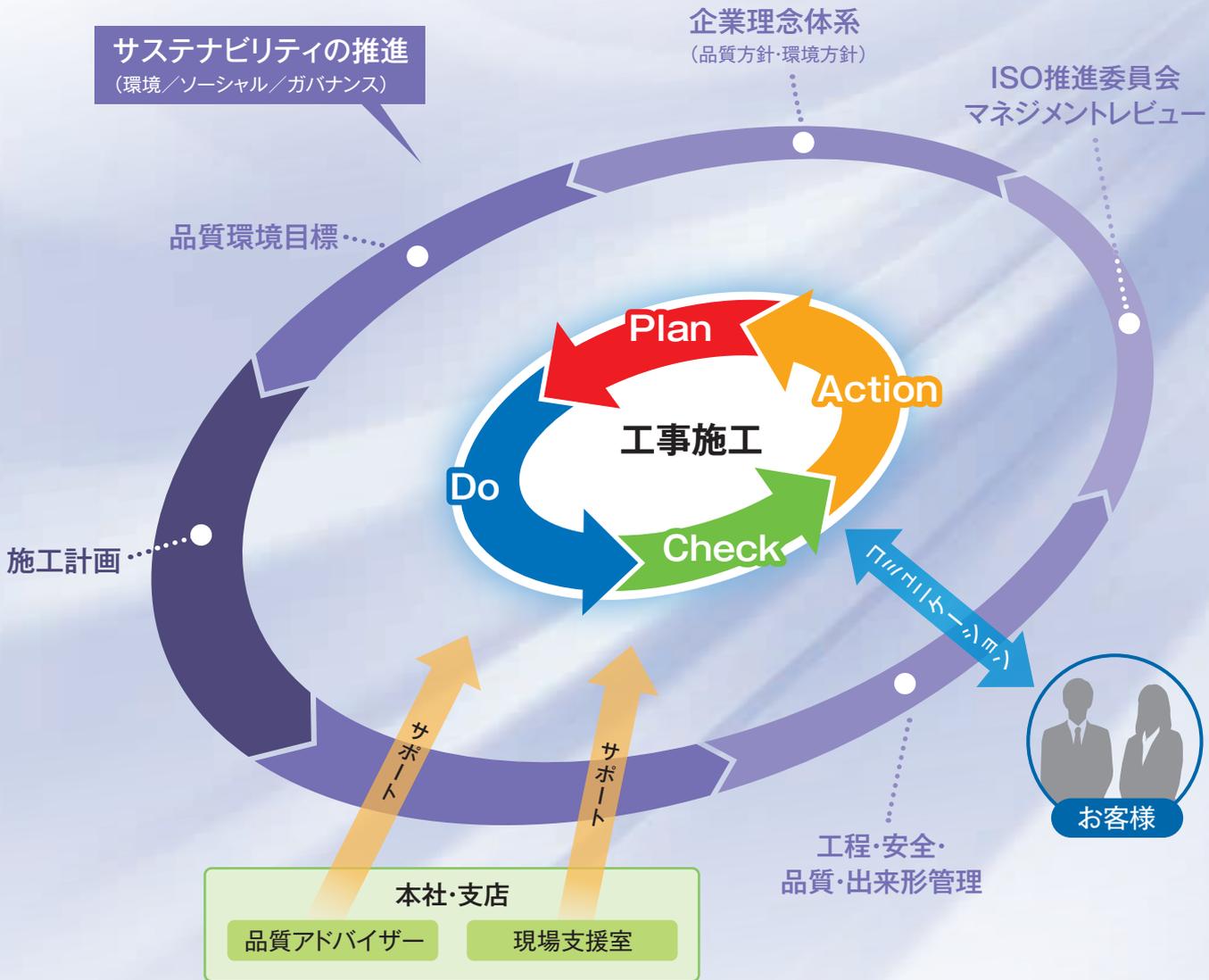


消火器訓練



# 品質・環境マネジメントシステム

ISO9001規格およびISO14001規格に基づく品質及び環境マネジメントシステムを運用することにより、品質の向上とお客様の満足度の向上を目指すとともに、積極的な環境保全活動を行っています。



若築建設について

座談会

事業戦略

E (環境活動)

S (社会活動)

G (ガバナンス)

## おお客様の満足度向上をめざして

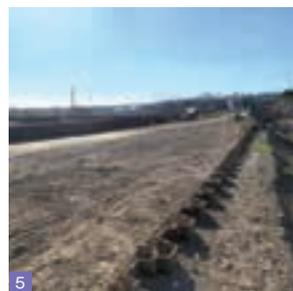
お客様のニーズを的確に把握し、ご満足いただける建設サービスを提供するため、受注から引渡し後の各段階において、本社、支店の各部門が一丸となってサポートする体制を整えています。

施工計画段階においては、品質確保や環境保全のための予防処置の検討に注力しています。また、お客様の要望や評価・貴重なご意見をしっかりと受け止め、建設サービスとおお客様の満足度の向上に活かすため、それらの情報を全社に展開しています。

### 国土交通省地方整備局等 表彰

#### 国土交通省地方整備局長表彰など

表彰者	表彰件名	対象工事件名	発注年度	受表彰者
関東地方整備局長	優良工事	1 東京国際空港C滑走路他地盤改良工事(その3)	2020年度	若築建設(株)東京支店
	優秀技術者			鶴岡 栄一
	優良工事	2 鹿島港外港地区航路・泊地(-14m)浚渫工事	2020年度	若築建設(株)東京支店
	優秀技術者			石田 俊央
中国地方整備局長	優良施工業者	3 岩国港臨港道路新港室の木線橋梁下部工事	2020年度	若築建設(株)中国支店
	優秀工事技術者			吉岡 甚次
九州地方整備局長	優良施工業者	4 令和2年度鹿児島港(中央港区)岸壁築造工事(第2次)	2020年度	若築・吉田特定建設工事共同企業体
	優秀現場代理人			坂井 一彦
東京都港湾局長	優良工事表彰	5 平成30年度新砂水門(再整備)建設工事(その2)	2018年度	若築建設(株)東京支店 (若築建設・大滝建設JV)
	優秀工事技術者			古場 翔、竹内 奈里子
	優良工事表彰	6 令和2年度辰巳排水機場(再整備)建設工事(その2)	2020年度	若築建設(株)東京支店
	優秀工事技術者			岡野 正樹
西日本高速道路株式会社 大阪支社長	優良施工業者	7 湯浅御坊道路熊井第二高架橋他2橋(下部工)工事	2017年度	若築建設(株)大阪支店



### 国土交通省地方整備局 2022年度工事成績優秀企業認定

東北地方整備局、関東地方整備局、近畿地方整備局、中国地方整備局、九州地方整備局

工事成績優秀企業認定は、過去2年間で当該地方整備局発注の工事を3件以上竣工し、工事成績評価の平均点が80点以上の企業を認定する制度です。

2022年度は、5つの国土交通省地方整備局から認定を受けました。



## 現場支援室

施工に直接携わる作業所でのICT導入やBIM/CIM活用などを支援し、現場の生産性向上や時短推進を図ることを目的に設置しています。

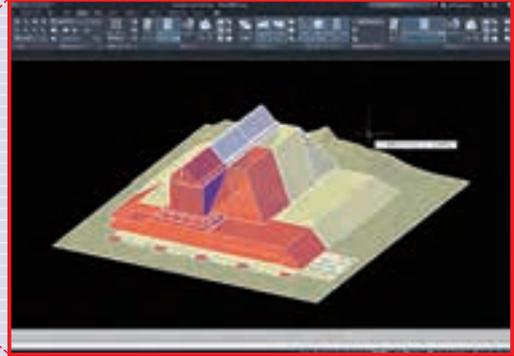
### 主な業務

#### ● BIM/CIMの支援

国土交通省発注の工事においては2023年度からBIM/CIMの活用が義務付けられます。当社は現場で発生するBIM/CIM関連作業をサポートしています。2021年度はさまざまな工種で18件の活用支援を実施しました。



CIMを活用したVR安全教育



活用したCIMモデル

#### ● 新技術対応支援

ICTを用いた検査や遠隔臨場等の新技術の現場導入や活用をサポートしています。

#### ● 書類作成支援

施工計画書作成の効率化を目的に、AI技術を活用した施工計画書作成支援ツールの開発に取り組んでいます。

#### ● 動画制作支援

発注者および一般向け現場PR動画等のコンテンツを取材や編集を含めて制作しています。

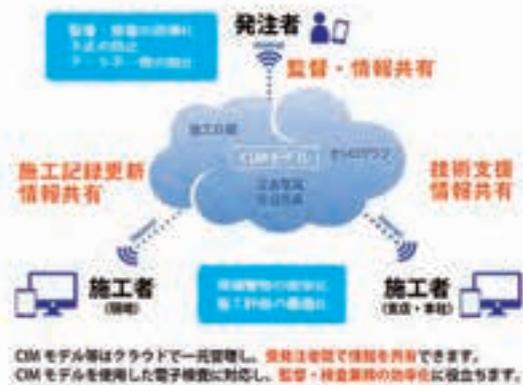


R3荒川第二調節池基盤整備その2工事 動画

#### ● クラウドサービスを使用した3Dモデル共有

専門のソフトウェアがなくても、Webブラウザがあれば、BIM/CIMモデルが閲覧でき、本社・現場間のみならず発注者との情報共有が可能です。

#### クラウドによる施工情報の一元管理と情報共有

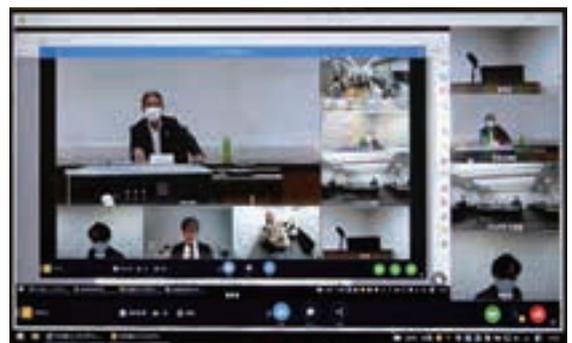


情報共有のイメージ

## 技術年報発表会

「技術年報」は当社の技術力向上へのさまざまな取り組みを可視化できる形で次世代に継承することを目的に毎年発行しています。また、発刊に合わせ本社において執筆者による発表会を開催しています。

2022年度は新型コロナウイルス禍での開催となったため、Web会議にて5月に開催し、本社・支店から9編の発表を行いました。



発表会のWeb配信



この印刷物は、E3PAのシルバー基準に適合した地球環境にやさしい印刷方法で作成されています  
E3PA:環境保護印刷推進協議会  
<http://www.e3pa.com>

